

第7回埼玉純真短期大学 研究セミナー

子どもの思いに寄り添う ～発達障害のある子の教育・子育てに学ぶ～



平成29年11月25日(土)

会場 埼玉純真短期大学 埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園

主催 埼玉純真短期大学

後援 埼玉県教育委員会・羽生市教育委員会

行田市教育委員会・加須市教育委員会

熊谷市教育委員会・埼玉県特別支援教育研究会

目次

1. 目次	1
2. 発刊のことば	2
3. 開催要項	3
4. 講座	
講座1 講師	発達支援教室ベリリーブ代表・文教大学 加藤 博之 5
	埼玉純真短期大学教授 小澤 和恵 5
司会・記録	小澤 俊太郎 8
講座2 講師	埼玉純真短期大学准教授 持田 京子 10
	埼玉純真短期大学助教 金子 智昭 13
司会・記録	加藤 房江 16
講座3 講師	加須市立騎西小学校学校教諭 齋藤 秀吉 18
	埼玉純真短期大学教授 伊藤 道雄 29
司会・記録	伊藤 道雄 31
講座4 講師	全国LD親の会 埼玉親の会「麦」事務局 矢崎 弘崎 33
	埼玉純真短期大学特任准教授 丸山 アヤ子 35
司会・記録	細田 香織 40
5. 全体会	
特別講演「合唱 ミュージカル・ライオンキング」	42
埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園	
共演 埼玉県立誠和福祉高等学校 埼玉県立羽生第一高等学校	
実践報告「ライオンキングの魅力」	44
埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園教諭 松澤ゆかり・菅原俊・加藤ゆかり	
6. アンケート報告	52
7. あとがき	57

発刊のことば

平成29年度「第7回埼玉純真短期大学研究セミナー」は、「子どもの思いに寄り添う～発達障害のある子の教育・子育てに学ぶ～」と題し、11月25日（土）に開催されました。午前の部は「音楽・音を楽しむ授業づくり」「発達障がいのある子の困り感に寄り添う」「障がいのある子の教育指導・支援」「障がいのある子の子育てと支援」のワークショップが開かれました。

この講座では、発達支援教室ビリーブ代表の加藤先生、加須市立騎西小学校の斉藤秀吉先生、全国LD親の会埼玉親の会「麦」事務局の矢崎先生からご指導いただき、本学から小澤・持田・伊藤・丸山・金子の5人の教員が助言者として参加いたしました。午後の部は場所を羽生ふじ高等学園に移して「合唱 ミュージカル・ライオンキング」の公演と同学園教諭の松澤ゆかり先生の「ライオンキングの魅力～音楽で生徒を育てる～」と題しての実践報告がありました。この「合唱 ミュージカル・ライオンキング」の公演には羽生第一高校と誠和福祉高校の生徒も共演し、総勢181名という迫力あるものとなりました。羽生ふじ学園の生徒の懸命さなどが観客に伝わり、多くの人が涙をしていたのが印象的でした。これを受けての松澤先生・菅原先生・加藤先生の実演や体験談を交えてのお話はこれからの教育はどうあるべきかを示唆した素晴らしいものでした。以上のような内容で、教育現場で日々ご熱心な取り組みをされている先生はじめ特別 支援教育に関心をお持ちの多くの皆さまのご参加をいただき、今回の研究セミナーも無事終えることができました。

本研究セミナーを開催しておりますこの時期は学校や地域でも秋の行事も多い中ではございましたが、埼玉県教育局特別支援教育課長の金子功先生、羽生市教育長の秋本先生、行田市教育長森先生、埼玉県特別支援教育研究会副会長の山田様をはじめ多くの方々にお越しいただきましたこと、あらためて御礼申し上げます。

この研究セミナーは平成19年度の文部科学省委託事業「軽度発達障害の幼児童に対する特別支援力養成のための教育職員再教育プログラム」を受け過ぎ実施いたしております。「ノーマライゼーション」や「特別支援」のことばを抜きにして、教育現場はもちろんのこと一般社会でもいかなる活動も考えることはできない時代です。このような状況の中、先生方や地域の皆さまと情報交換と共有を行い、お互いの理解を深め、少しでも教育現場や地域社会のお役にたてればとの考えで、埼玉県・羽生市・行田市・加須市・熊谷市の教育委員会や埼玉県特別支援教育研究会をはじめ多くの方々からのご支援をいただきまして「特別支援教育・発達障がい研究セミナー」として開催いたしております。

幼児教育者養成の小さな大学の研究セミナーではございますが、一つひとつの積み重ねで、「特別支援教育」への理解と支援が広がり繋がっていくことを願ってやみません。

最後に、今大会の運営と本報告書作成にあたって頂きました研究セミナー実行委員長の伊藤道雄先生はじめ運営に携わっていただきました皆さまに心より御礼申し上げます。

来年、そして再来年と本研究セミナーがさら更なる発展を目指して継続されますことを お祈り申しあげ、発刊のご挨拶とさせていただきます。

埼玉純真短期大学
学長 藤田 利久

開催要項

子どもの思いに寄り添う

～発達障害のある子の教育・子育てに学ぶ～

日時 平成29年11月25日（土）

会場 埼玉純真短期大学 埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園

後援 埼玉県教育委員会・羽生市教育委員会・行田市教育委員会・加須市教育委員会・熊谷市教育委員会・埼玉県特別支援教育研究会

参加者 特別支援教育・発達障がい等に関心のある方

日 程

9:30	10:00～11:30	11:30～13:00	13:00～13:20	13:30～14:20	14:30～15:30
受付	講座	昼食・移動	全体開会行事	特別公演	実践報告
会場	埼玉純真短期大学		埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園		

講座1 10:00～11:30 「音楽・音を楽しむ授業づくり」

発達支援教室ビリーブ代表・文教大学 加藤 博之

埼玉純真短期大学教授 小澤 和恵

音楽療法的視点から、障がいのある子を含めたすべての子どもが生き生きと活躍できる音楽活動を提案します。

講座2 10:00～11:30 「発達障がいのある子の困り感に寄り添う」

埼玉純真短期大学准教授 持田 京子

埼玉純真短期大学助教 金子 智昭

幼稚園・保育所・認定こども園等での障がいのある子の具体的支援の在り方を探ります。

講座3 10:00～11:30 「障がいのある子の教育と指導・支援」

加須市立騎西小学校学校教諭 齋藤 秀吉

埼玉純真短期大学教授 伊藤 道雄

障がいのある子の教育について、通常の学級・特別支援学級等の在り方・交流及び共同学習等について考えます。

講座4 10:00～11:30 「障がいのある子の子育てと支援」

全国LD親の会 埼玉親の会「麦」事務局 矢崎 弘美

埼玉純真短期大学特任准教授 丸山 アヤ子

障がいのある子の子育ての悩みを共に考えます。参加者の皆様が抱える課題を語り合います。

○ 昼食・移動 11:30～13:00 埼玉純真短期大学

全体会開会行事 13:00～13:20 羽生ふじ高等学園体育館

・学長あいさつ ・来賓あいさつ

特別公演「合唱 ミュージカル・ライオンキング」13:30～14:20

埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園

共演 埼玉県立誠和福祉高等学校

埼玉県立羽生第一高等学校

開校以来11年、羽生ふじ高等学園全校生徒と近隣高校生とのライオンキングは、見る者に、共に学び、共に精一杯生きる喜びを感じさせてくれます。全力でぶつかる若いエネルギー、渾身の12曲をご覧ください。

実践報告 「ライオンキングの魅力」14:30～15:30

埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園教諭 松澤 ゆかり

菅原 俊

加藤 ゆかり

講座1「資料」

音楽・音を楽しむ授業づくり

発達支援教室ビリーブ・文教大学 加藤博之

埼玉純真短期大学教授 小澤和恵

<イントロダクション ～音楽の持つ力～>

埼玉純真短期大学 小澤 和恵

何かの音が聞こえてきます。同じ場所に居合わせている私たち、同じ音・音楽が聴こえているはず……。同じ音・音楽は一人から一万人でも同時に届きます。しかし、私たちの心に湧き出す感情は皆それぞれです。でも、何かしら同じ方向の気持ちになります。

音が伝わる仕組みは、空気の振動が鼓膜を震わせ、聴神経をから脳に伝わります。音、音楽の諸要素を、脳の様々な働きによって瞬時に再構成し、音源から1秒も要しないで感情を呼び起こします。音という全く形のない見えないものが、時に雄弁に、時に優しく何かを伝えることができ、それは、言葉を超え、形あるものを超えた表現であることもあります。

<音の要素>

・音の高低（高低、上下などの方向性）

・音量（大小、ボリューム）

・音色（音の性質）

<音楽の要素>

・リズム（音楽の原始的な要素）

・メロディー（音楽の情緒的要素）

・ハーモニー（音楽の質感）

<音楽活動の特徴>

- ①非言語的特性により、コミュニケーションの手段として自在に用いられる。
- ②正しいか間違っているといった判断をされる必要のない活動をつくりやすい。
- ③身体活動を誘いやすく、また身体活動の調整機能をもつ。
- ④音楽以外の活動と組み合わせることができる。
- ⑤グループ活動の中に取り入れやすい。

音や音楽は、さまざまな機能をもっており、人の意識、無意識の世界に多くの影響を与えます。だからこそ、音楽の持つ力、音楽活動の有効性を理解し、「なぜその音を出したのか」「何のために、どう音を使うのか」を大切に考え、音楽活動を行うことが求められます。

<本編>『音楽を使って人とつながろう』

発達支援教室ビリーブ・文教大学 加藤博之

1. 歌は人と人をつなぎ、社会性を促す

◎歌の持つ意味を考える

- ・歌を歌うことで、情動の発散ができる
 - ・その場の空気（雰囲気）が一転する
 - ・みんなと一緒に歌うことで、一体感を味わうことができる
 - ・歌はその場の空気（雰囲気）を一転させる
- 文字を持たない民族はあっても、歌を歌わない民族はない

<ビリーブ>

例えば きみが 傷ついて くじけそうに なったときは
 必ず 僕が そばにいて 支えてあげるよ その肩を
 世界中の 希望のせて この地球は まわってる
 今 未来の 扉を 開けるとき 悲しみや 苦しみが
 いつの日か 喜びに かわるだろう I believe in future 信じてる

◎発声構音の視点からみた歌

- ・声がよく出ている子はことばに発展する可能性がある（発声による言語訓練）

◎場面理解のためのテーマ曲としての歌

- ・あいさつの歌、さようならの歌、片付けの歌、など

<さようならの歌>

さよなら ○○ちゃん さよなら ○○ちゃん さよなら ○○ちゃん
 さようなら

◎即興的に歌う

- ・記憶力（短期記憶）を高める
- ・メロディ記憶を高める
- ・興味の範囲を広げる

<きりんさん>

きりんさん きりんさん どうして お首が長いの
 あっちのお花も見たいし こっちのお花も見たいし
 だから お首が長いの

2. 音楽は身体的コミュニケーション力を育てる

- お互い身体を持っているから、この身体が様々なものを感受して、互いに共感し合う

◎身体活動の伴奏としての音楽

- ・音楽の「ある」「なし」で身体の動きが違ってくことを体験する

◎2人組で一体感を味わう

<ねらい>身体への気づき、ボディイメージの高まり、動作模倣、即時模倣、
 両手の協応、

音楽と動きの一体化、リズムに合わせる力の獲得、相手への意識、
人に合わせる力、
コミュニケーション能力、イメージする力、遊びの創造

3. 楽器を使って相手とつながる

◎楽器の音色を楽しみながらつながる

【トーンチャイムのねらい】

- ・音色や音の響きへの興味、受け入れ
- ・手の操作性（一定方向に振る、動きを止める）
- ・集中力の高まり、相手とのやりとり、曲想に合わせる力

【ペントトニック音階】

1オクターブの中の5音からなる音階で、民族によりさまざまな組み合わせが用いられている

＜ペントトニックの音の組み合わせの例＞

Cペントトニック→ドレミソラド（ファとシを抜く）

Gペントトニック→ソラシレミソ（ドとファを抜く）

黒鍵ペントトニック→鍵盤楽器の黒鍵にあたる派生音の5音

◎一人ひとりを意識しながらつながる

- ・楽器を使った会話・だんだん楽器が増えていく、仲間が増えていくことの楽しさ

◎大勢で一体感を味わう（合奏『風になりたい』を通して）

＜ねらい＞いろいろな音や楽器への興味、テンポ、リズムへの意識と同期

（音に合わせる力）

曲想に合わせて表現する力、情動の発散、みんなで一緒に音を出す一体感

＜準備＞ラテン風楽器（マラカス、鈴、ボンゴ、コンガ、キッズジャンベ、ウッドブロック、クラベス、スリットドラム、タンバリン、カスタネット、ビブラスラップ、アゴゴベル、カバサ、ツリーチャイム、ギロ、トライアングル、竹など）

終わりに・・・

＜グッデーグッバイ＞

あなたと会えて ほんとによかった

やさしい心 ありがとう やさしい心 ありがとう

グッデー グッバイ グッデー グッバイ マイ フレンド

講座1「記録」

音楽・音を楽しむ授業づくり

発達支援教室ビリーブ・文教大学 加藤博之先生

埼玉純真短期大学教授 小澤和恵先生

講座1では、まず、小澤和恵先生による<イントロダクション ～音楽の持つ力～>の講義があり、次に、加藤博之先生によって「音楽を使って人とつながろう」というテーマで、実技実践についてご指導いただいた。

<イントロダクション ～音楽の持つ力～>

音が伝わる仕組みは、空気の振動が鼓膜を震わせ、聴神経をから脳に伝わる。「音の3要素」は、「高さ」、「大きさ」、「音色」であり、「音楽の3要素」は、「リズム」、「メロディー」、「ハーモニー」である。それらのたくさんの諸要素を含んだ音・音楽が、次々と送られ、脳の様々な働きによって瞬時に再構成される。音の発生から1秒も要しないで聴く者の感情を呼び起こすわけですから、改めて音楽のすごさを感じる。

「音・音楽」は、一人に対しても、万人に対しても同時に届き、演奏者の歌声、演奏が始まるとともに、一瞬にしてシーンと聴き入り、引き込まれ、気持ちを持っていかれる。また、演奏の始まりの一音にして大熱狂や大興奮にもなる。音楽は、音という全く形のない見えないものが、言葉を超え、形あるものを超えた表現になって伝わる力をもっている。

音・音楽を使った活動の特徴を挙げると

①非言語的特性により、コミュニケーションの手段として自在に用いられる。

言葉を介さずに、音の要素、音楽の要素のもつ力によって、何かを伝えたり、受け取ったりが可能。

②正しいか間違っているといった判断をされる必要のない活動をつくりやすい。

音楽には自由性がある。

③身体活動を誘いやすく、また身体活動の調整機能をもつ。

音楽によって、歩く、走る、ゆれる、回るなど、身体の一部や、全身運動などの活動を誘いやすくする。

④音楽以外の活動と組み合わせることができる。

ペープサートやパネルシアターのような視覚的なものと組み合わせたり、お話や劇に音楽を入れることが可能。

⑤グループ活動の中に取り入れやすい。

音楽は、1人でも、2人でも、何人かのグループでも、どのような枠組みでも活動可能。

以上のように音や音楽は、さまざまな機能をもっており、人の意識、無意識の世界に多くの影響を与える。だからこそ、音楽の持つ力、音楽活動の有効性を理解し、「なぜその音を出したのか」「何のために、どう音を使うのか」を大切に考え、音楽活動を行うことが求められる。

<本編 ～音楽を使って人とつながろう～>

音楽は人に合わせる力が必要になるため、人と繋がる手段として、有効である。

例えば緊張感のあるところで、いきなりみんなで歌を歌うことですぐに打ち解けることができ、一体感を作ることができる。このように音楽には心をつなげる力があり、これはコミュニケーションになっていると言える。

こうした音楽活動をうまく使うことで「子どもの社会性」をみることができる。

楽曲には、「知らない曲・知っている曲・歌えない曲」があり、これらをどのように対処するかによってその人の社会性が見えてくる。例えば「知らない曲」においても、合わせることができる子どもは協調性・社会性が高いと言える。逆に「知らない曲」に合わせる力が乏しいと、協調性などに少々問題がある可能性がある。

また、音楽には始まりがあって終わりがあり、この「終点」を理解できる子どもは伸びていく。つまり、終点を理解させることが子どもの発達には大切になってくる。

では、実際にどのように子どもの発達に音楽を活用できるのかをみていく。

例えば発音が苦手な子どもに対して次のような曲を用いる。

・「パ」の歌 ・「ア」の歌 ・「おかあさん」の歌

言葉のみでは強制力があるが、音楽には強制的にならないという特徴がある。

この時、注意点として歌を歌わない子どもに対して、無理に声かけないことがとても重要である。また、発音が苦手な子どもに多くみられる特徴として、聞き取り能力の低さが挙げられる。子どもの聴く力を伸ばすためにも音楽は有効だが、その聴く機会を奪ってしまうことのないように気をつける。

次に、協調性や社会性を身につけるために音楽をどのように生かすか。次のような活動を行う。

「2人で1つのペアを作る」→「挨拶をする」→「両手を握る」

このようにお互いに両手を握っている状態は「握っているし、握られている」という状態で、この状態を「総合主体性（能動と受動）」という。つまりコミュニケーションになっているということで、子供と関わる時の基本となる。

次に、この状態でゆらゆらと揺れてみる。この活動を繰り返すことによって模倣（ミラーリング）ができるようになり、他の人と同じ動きをするという学習になる。

ここでも音楽を用いて「ゆっくり」または「はやく」行うことで、音楽と相手の動きに合わせる能力を育てることができる。

最後にトーンチャイムを用いた音楽活動を通して「終点」の理解を高めていく。子どもたちが自由に音楽活動ができるという利点があり、楽しみながら「終点」を学ぶことができる。さらに、加藤先生が伴奏を弾き、それに合わせて自由に演奏した。これにより、先生の伴奏がゆっくりの時は音を柔らかく鳴らし、速い時は元気に音を鳴らすなど、周りの音を聴いた上でそこに合わせる能力を高めることができる。加藤先生より「大人は正しいものとは何かを考え、世間体を気にしてしまう。しかし子供達は違う。想いや、自分の中に湧き出るものに対して、とても素直である。それを、大事にしてあげる先生であることが大切である。」というメッセージをいただいた。

(文責 埼玉純真短期大学 小澤俊太郎)

発達障がいのある子の困り感に寄り添う

埼玉純真短期大学准教授 持田 京子

明るい夢ある統合保育のクラスづくり

研修セミナー 2017, 11, 25

持田京子 埼玉純真短期大

現在の状況

- **ASD**(自閉症スペクトラム)
- **LD**(学習障害)
- **ADHD**(注意欠陥多動性障害)
- 愛着障害

など今、様々の特徴を持つ子どもが多くなっています。
どの子どももみんな仲間として、楽しい学級づくりをするにはどうしたらよいのでしょうか？

家庭の抱える不安に付き合おう

- とにかく話を聞こう ⇒ 実際の様子を丁寧に伝えよう(必ず頑張ったことも伝えよう)
- 1歳6か月、3歳児検診ではどうだったかな？
- それぞれの子どもが持つ特性があるので、心配なら念のために、発達センターにいらっしやるとよいですよ、多くの方が利用されていて、安心ですよと発達医療センターを紹介しよう(診断はプロの手にゆだねよう)
- 学級懇談会など、出席しやすい楽しい雰囲気を作ろう。

今、必要な支援⇒あきらめず繰り返すこと

- 子どもが今、愛されている♥必要とされている思いを繰り返して育てましょう。
- 「できないことを、できるように」から⇒「できることをふやそう」という思いを持ち、伝えましょう。
(生活習慣など、一步一步、工夫を楽しもう)
- チームで見守る雰囲気を作ろう。(月1回職員会議で報告しよう)
- 園や学校は集団です。可能なら、1対1で個別で必要な療育を受ける機会を保障できるとよいでしょう。

板橋区

- 板橋区子ども発達支援センター
(小茂根・蓮根)
 - 板橋区健康福祉センター(5か所)
保護者・子ども
- ↑ ↓ 様々な機関で療育指導
- ⇒ 各園 ⇔ 要支援児巡回指導
- 

上級学校へつなげよう・3年後を見据えた保育・教育

- 教育委員会に保護者が就学相談をお願いする
- 園の様子を見に来ていただけるのか
- 学校の授業参観をさせていただけるのか
- ブルーシートを活用(子どもの特性を親と一緒に書いたシート)
- 今年から教育要領・指針が告示され、来年から改訂されます。資質・能力をどう考えて、伝えるのかをもう一度振り返りたいですね。

ここにいて安心と思える居場所づくり

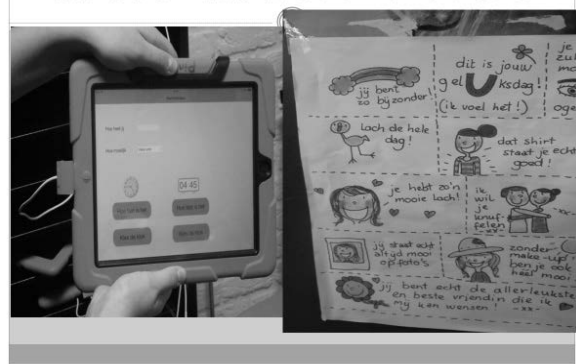
- 何となく、そばにいても気にならない、互いに手を出さない友だちをそばに。
 - 気に入ったものを見つけて(本、色、形、音、パズル)コーナーに。(苦手なものを知っておこう)
- みんな違っていいよ:ちがうから楽しいね
○「そっとね、やさしくね」を合言葉に
- 静か、隠れコーナーを(ついでに・仕切り・ロッカー)
 - 集まるときは、端の落ち着く場所に。椅子には印もしかしてーを考えよう
- 「イメージできないかも」「音がうるさいかも」「時間がちがうかも」「よく見えないかも」「言ったことが整理できないかも」「いつもとちがうこといっちゃったかも」「いま、自分で調整したいかも」

実践例①集まり (毎日の繰り返しが大切です)

- 1日の流れや約束を掲示。
(ストレスがたまっていると思ったら、皆で軽い運動)
- 朝の活動 (おはようのハイタッチなど)
- ★集まって良い姿勢(目・耳・口・手・足)決まった席
- 名前を呼ぶ(お休みだれ?)朝登園したら、名前を覚えたら、呼んでもらうなどの工夫。
- ★分かりやすいクイズ
- ルーティンの手遊びを入れよう(家の人にも)その時やらなくても、聞いていますよ。



分かりやすい提示(オランダ・イエナプラン)

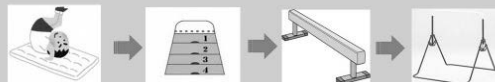


実践例② 活動 ねらい・ねがいが見える指導

- 活動にねらいをもち、子どもに簡潔に伝えましょう。
(子どもも前もって何をやるか、そのねらいもわかる。)
 - ここまではやりましょう。(たとえば・ぬりえまではいっしょにね)終わりが分かる、めりはりと、毅然とした態度。
 - 道具や内容の見直し(例 字を書くときに、大きな紙にのりはスティックのり 下に物を敷くなど(感覚的なことに留意))
 - 頑張っているほかの子どもを褒めましょう。手本にもなります。
- ♥がんばったら大いに褒めましょう。(必ず簡単に記録や画像を)

実践例(運動)参加できることを増やそう 居場所にテーブル、リング、椅子など

- 体操(繰り返し) (自分で考える昆虫太極拳などもよい)
 - 運動サーキットなどは、繰り返しでできるようになります。順番も覚えます。(あらかじめ、絵で順番を示しておくとい)
- 友達とかかわるチャンスをつくろう。縦割りも有効です!
なべなべそこぬけ・手をつないでジャンプ・はたあげなど
- リング転がし・リングに同じ色のブロックを入れるゲーム
 - ボール渡し



実践例(音)参加できることを増やそう



静かな場所・動と静のめりはりを

- すてきな絵本コーナーがあるといいですね。

あったか絵本
研究絵本
静かなお話などー

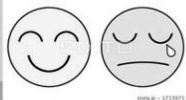


(人間関係)どんなときもそこにいていいよ

- 人に当たられたり、つらい経験をしていると、いつも自分が注意されているため、人にもここぞとばかり言ってしまう。
- 自信がなくて、人前がきらいになる。隠れたいくなる。



- 先生も感情的ではなく、あたたかな言葉を心掛けよう。
クイズ 【あったか言葉】と【とげとげ言葉】をみんなで考えよう



実践を振り返ろうPDCA 笑い・けじめ・わかりやすさ

- ねらいをもって計画したことはどうだったか？
- 実践はどうだったか？
- チェックしよう
良かった面・課題の両方が見つかる最高ですね。
- 環境を再構成しよう・新しくプラン

先生が変われば子どもが変わります。子どもが変われば保護者が変わります。保護者が変われば子どもが成長します。

- いつかできるよ、という信念 そして
笑顔で「ま、いいか」という柔軟な心で 頑張りましょう。

今後の課題



今後の課題

◎上級学校へ、将来へ向けて、自分探しができる幼児教育を幼児教育者が考える

◎発達傷がいを分けてみる見方の限界

◎すべての保護者の発達理解と親が子どもを育てる保護者教育を



第7回 特別支援教育・発達障がい研究セミナー
講座2 発達障がいのある子の困り感に寄り添う

特別支援教育における集団宿泊的行事に関する研究
—しおりを活用した小学校特別支援学級の実践事例—

埼玉純真短期大学 こども学科
金子 智昭

※研究の詳細は、「文京学院大学教職研究論集
第7号」に記載されております。

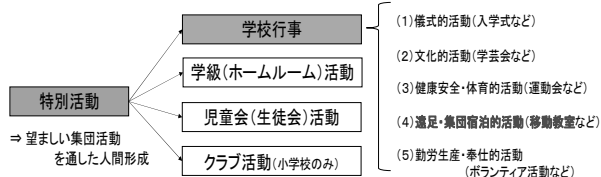
はじめに

●障がいの多い子は、学校行事に“困り感”を抱えやすい。

「私と自閉症男児との出会い—小学校特別支援学級の移動教室より—」
・開園式などの集団参加に極度の抵抗を示した。極度の不安から、私のほろをつねったり、自己刺激行動（腕をかむ、頭をたたくなど）をとったり、寄声を発してその場から逃げ出そうとしたりした。
・1日目の夕食のカレーが食べられなかった。味覚や食感の過敏性が原因とされる。
・自分の興味のある事柄について、おしゃべりを始めてしまうと、何度声かけをしても自制できなかった。また、以前覚えた言葉（ホットケーキのレシピ）が突発的に出てきます。
・トイレに対する抵抗が強く、トイレに誘うと手を強く握られてしまった。
・山登りをしたが、疲れてその場に座り、おぶって一緒に下山した。

⇒ 児童の困り感に寄り添うしおりの活用方法に着目した。

問題と目的
—特別支援教育における学校行事の運営上の課題—



【学校行事の課題】
大きな集団の中で
個に応じた指導を展開する

【特別支援教育の課題】
障がいの状態に応じて
指導内容や指導方法を工夫する

本研究の目的

小学校特別支援学級(A小特支)のしおりの分析
や通常学級のしおりと比較を通じて、特別支援
教育におけるしおりの留意点を検討する。

A小特支における移動教室の概要

- (1) 日時・期間・場所・形態
日時…2010年10月中旬
期間…2泊3日
場所…長野県東部地方
形態…7校の合同移動教室
- (2) 対象児および引率教職員
対象児…10名(4～6年生、男子7名女子3名)
※知的障がいを伴う自閉症、ダウン症、通常学級への
適応障がいなど、様々な理由で特別支援学級に在籍。
引率教職員…8名(校長1名、担任3名、介助員4名)
※金子は、介助員として移動教室に参加した。
- (3) 主な行事日程
1日目…湖散策、乳しほり体験、他校と合同レク
2日目…ハイキング、お土産購入、牧場、工作
3日目…地域交流促進センターの見学
- (4) A小特支の移動教室の目的
① 児童一人ひとりに応じた身辺自立の力を培う。
② 集団生活の楽しさを味わい、友情を深める。
③ 自然と親しみ、自然の中でのびのび活動する。

分析1

しおりの内容分析
—「自立活動」の観点に基づいて—

■自立活動とは何か

- ▶ 特別支援学校の学習指導要領に独自に設定されている。
- ▶ 児童生徒の自立を目指し、学習や生活上の困難を改善・克服するための教育活動のこと。
- ▶ 「授業時間における指導を中心とし、各教科等の指導においても、自立活動の指導と密接な関連を図って行わなければならない」(文科省, 2009)。

■自立活動の内容

- ▶ 「1. 健康の保持」、「2. 心理的な安定」、「3. 人間関係の形成」、「4. 環境の把握」、「5. 身体の動き」、「6. コミュニケーション」の6つが設定。

分析1では、
A小特支のしおりと自立活動との関連を検討する。

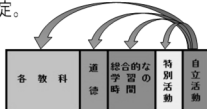


表1 学習指導要領における自立活動の内容

- 健康の保持
 - (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること
 - (2) 病気の予防と生活習慣に関すること
 - (3) 身体各部の状況の観察と観察に関すること
 - (4) 健康状態の維持、改善に関すること
- 心理的な安定
 - (1) 情緒の安定に関すること
 - (2) 状況の理解と変化への対応に関すること
 - (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること
- 人間関係の形成
 - (1) 他者との関わり方の基礎に関すること
 - (2) 他者の意図や感情の理解に関すること
 - (3) 自己の理解と行動の調整に関すること
 - (4) 集団への参加の基礎に関すること
- 環境の把握
 - (1) 感覚する感覚の活用に関すること
 - (2) 感覚の認知の特性への対応に関すること
 - (3) 感覚の補助及び代用手段の活用に関すること
 - (4) 感覚を必要時に活用した周囲の状況の把握に関すること
 - (5) 認知や行動の手続きとなる概念の形成に関すること
- 身体の動き
 - (1) 姿勢と運動、動作の基本的状態に関すること
 - (2) 姿勢保持と運動、動作の補助的手段の活用に関すること
 - (3) 日常生活に必要な基本動作に関すること
 - (4) 身体移動能力に関すること
 - (5) 作業に必要な動作と円滑な実行に関すること
- コミュニケーション
 - (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること
 - (2) 言語の理解と表現に関すること
 - (3) 言語の形成と活用に関すること
 - (4) コミュニケーションの状況と活用に関すること
 - (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること

自立活動の内容
⇒ 生きる基礎となる力

3位：コミュニケーション (17.6%)

※状況を明確に	
かいついでしようかいよう	かいついでよう
合同移動教室 ⇒他の学校の友達に自己紹介	

第4場面「自己紹介」
(状況に応じたコミュニケーション)

--	--	--	--	--	--	--	--

② 字の形を写す

※フィードバック

第7場面「児童の日記」「日記へのコメント」
(言語の形成、対話の充実)

4位：環境の把握（11.7%）

いついくの？

10月13日（木曜）～

10月15日（金曜）

日	月	火	水	木	金	土
26	27	28	29	30	1	2
3	4	5	6	7	8	9
16	17	18	19	20	21	22

※カレンダー
⇒視覚

なにをするの？

1. 目目

2. 目目

3. 目目




第1場面「いついくの？何をやるの？」
(行事予定の全体把握)

第11場面「リュックに入れる持ち物」
(持ち物の整理整頓)

分析2 特別支援学級のしおりの特徴と留意点 —通常学級のしおりとの比較を通して—

特徴1: 継時的・同時的資料の併用化 留意点: 障がい児の特性

[illegible]

特別支援學級(繼時的・同時的)

(2) 音楽
・音楽の演奏やレコーディングなど、録音設備、録音士が行動する。
・録音機材、録音機材の修理、録音機材の搬送、録音機材の保管などがある。
・録音機材、音楽とよく使い、使いこなす。

・音楽の制作
①音楽の制作は、手作業。
②音楽制作は、録音機材に音楽を作る。
③音楽制作は、録音機材に音楽を作る。
④音楽制作は、録音機材に音楽を作る。
⑤音楽制作は、録音機材に音楽を作る。

・音楽の制作
①音楽制作は、手作業。
②音楽制作は、録音機材に音楽を作る。
③音楽制作は、録音機材に音楽を作る。
④音楽制作は、録音機材に音楽を作る。
⑤音楽制作は、録音機材に音楽を作る。

(3) 入浴
・音楽制作は、手作業。
・音楽制作は、録音機材に音楽を作る。
・音楽制作は、録音機材に音楽を作る。
・音楽制作は、録音機材に音楽を作る。
・音楽制作は、録音機材に音楽を作る。

通常学級(繼時的)

特徴3:保護者との連携の強化 留意点:特別支援教育の円滑な推進

※家で練習したら日付やチェックを入れる

[illegible]

特別支援学級（※通常学級には見られなかった）

にもつ しらべ

各組の代表者 各組の代表者より、1人ずつ、お話をしなさい。

年 月 日

組 名

1. お名前をいってください。
2. お名前をいっていただきます。
3. お名前をいっていただきます。
4. お名前をいっていただきます。
5. お名前をいっていただきます。
6. お名前をいっていただきます。
7. お名前をいっていただきます。
8. お名前をいっていただきます。
9. お名前をいっていただきます。
10. お名前をいっていただきます。
11. お名前をいっていただきます。
12. お名前をいっていただきます。
13. お名前をいっていただきます。
14. お名前をいっていただきます。
15. お名前をいっていただきます。
16. お名前をいっていただきます。

家と学校で練習

特別支援学級のしおりの特徴と留意のまとめ

表4 特別支援学校のしよりの特徴と留意点

	特別支援教育における特徴	特別支援教育における留意点
特徴1	1 継続的・同時的資料の使用化	「障害児の特性」に対する留意 具体例：口頭の手指や指導がわかりにくい子どものために、活動や作業の手順を示すことと（継続的）、イラストや写真などを添えて視覚的に示すこと（同時的）の両方が重要になる（岡田・藤村・中村, 2002）。
特徴2	2 児童の生活的自立に向けた教材化	「特別支援教育の数量性」に対する留意 具体例：生活学習プログラムについて、「児童生活の学習は生活的な目標や課題に沿って組織されることが大切である」（文部省, 2009）と述べられている。
特徴3	3 保護者との連携の強化	「特別支援教育の円滑な推進」に対する留意 具体例：保護者が、障害のある子どもに教育に参画し、学校での指導の成果を子育てに活かしていくことは、障害のある子どもへの成長に役立ちことになる（柳澤, 2011）。

本研究のまとめ

しおり＝「行事の行程を理解する手立て」に過ぎないという固定観念

分析1と分析2を通して・・・

- ①しおりは、自立活動の6内容と関連しながら作成されている。
- 自立活動の内容の力点は、当該校の移動教室の目的を反映している。
- ②しおりの内容は、「保護者」や「教員」にも向けて発信されている。
- 保護者の教育的参画を促す、教員－保護者間の情報の共有化、などの効果が期待される。
- ③「児童」向けのしおりの内容には、「継次的・同時的資料の併用化」「児童の生活的自立に向けた教材化」の2つの特徴がある。
- 障がい特性に配慮した理解しやすい内容を前提に、児童の学習および生活上の課題克服に向けた教材として活用されている。

▶ 保育現場の行事においても活用可能(遠足、運動会、表現発表会、卒園式など)

講座2「記録」

発達障がいのある子の困り感に寄り添う

「明るい夢ある統合保育のクラスづくり」～要支援児巡回指導の具体例をもとに～

埼玉純真短期大学 持田京子先生

現在の状況は、発達障害や様々な特性を持つ子どもが多くなっている。現場の先生方も頑張っているが、それを支援する人も必要である。

○家庭の抱える不安に付き合う。

- ・とにかく話を聞き、頑張ったことや実際の様子を丁寧に伝える。
- ・それぞれの子どもがもつ特性があるので、心配なら念の為、発達医療センターを紹介し、診断をプロの手に委ねる。
- ・クラス懇談会、出席しやすい楽しい雰囲気を作り出すことが子どもに有効である。

○今、必要な支援をあきらめず、繰り返しお話を聞く・し続ける。

- ・子どもが今愛されている、必要とされている思いを繰り返し育てる。
- ・出来ることを増やそう。先生が認めていくことが大切。・みんなで見守られている雰囲気作り。

○板橋区の実践例

○上級学校へつなげよう・3年後を見据えた保育・教育

○報告できる雰囲気実践例を交えての提案

○「ここにいて安心」と思える居場所づくり（お気に入りの物をコーナーに・隠れコーナー）

○実践例

①朝の集まり・座る場所・位置・椅子の工夫・隣の友達（毎日の繰り返しが大切）

- ・名前を呼ぶ工夫・1日の流れや約束を掲示・手作りクイズ・ルーティンの手遊びを入れる。

②主活動（作業）活動にねらいを持ち、子どもに分かりやすく伝える。

（運動）参加できることを増やす。体操や運動サーキットなどの繰り返し。

（音）息を吸う、はく、声を出す、音を聞く、音を使ってみんなで合わせることも有効。

静かな場所・動と静のメリハリをつける。素敵な絵本コーナーがあるとよい。

（人間関係）いつも自分が当たられたり、注意されていると、他の人にもここぞとばかりに言うてしまう。

○実践を振り返ろうPDCA。「先生変われば子どもが変わる。子どもが変われば、保護者が変わる。

保護者が変われば、子どもが成長する。笑顔と柔軟な心で、頑張りましょう。」

①②について具体的な内容をオランダ・イエナプランの話を交えて、提案していただいた。

特別支援教育における集団宿泊的行事に関する研究

—しおりを活用した小学校特別支援学級の実践例—

埼玉純真短期大学 金子智昭先生

1. 問題と目的

特別支援教育における学校行事の目的は、児童生徒の望ましい態度を形成することにある。しかし、大きな集団の中で個に応じた指導を展開することや、障がいの特性に応じた支援が必要であり、その2つを教師が背負っていかなければならないという課題がある。小学校特別支援学級の移動教室で活用されたしおりの内容分析や通常学級のしおりとの比較を通じて、特別支援教育におけるしおりの留意点を検討した。

2. しおりの内容分析―「自立活動」との関連―

「自立活動」は、特別支援学校の学習指導要領に独自に設定され、児童生徒の自立を目指し、学習や生活上の困難を改善・克服するための教育活動のことである。自立活動の内容は、健康の保持・心理的な安定・人間関係の形成・環境の把握・身体の動き・コミュニケーションの6つが設定されている。特別支援学校のしおりの全17場面のそれぞれが、特別支援学校の自立活動の6内容および26の小項目のうち、どのような点の配慮されているのかを対応させながら検討した。

全17場面のうち、児童は15場面（88.2%）、保護者は7場面（41.1%）、教員は6場面（36.2%）、児童・保護者・教員が共有する内容は4場面（23.5%）である。このことから、（1）児童のみならず保護者や教員を含めた幅広い対象に向けて作成されている。（2）対象者（児童・保護者・教員）の記入を要する場面があり、中でも児童対象が最も多く、児童の移動教室の事前・事後学習のワークシートとして活用されている。（3）しおりの自立活動の内容の出現頻度は、1位は人間関係の形成（29.4%）・2位は身体の動き（26.4%）・3位はコミュニケーション（17.6%）であり、移動教室の目的と深く関連している可能性があることの3点が明らかになった。

3. 小学校特別支援学校のしおりの特徴と留意点―通常学級のしおりとの比較―

特別支援学級のしおりと一般的な公立小学校の通常学級で活用されているしおりとの比較を通じて、特別支援教育におけるしおりの留意点を検討した結果、児童の障がい特性に配慮した理解しやすい内容であること（継時的・同時的資料の併用化がなされている）。移動教室のあらゆる体験学習の機会を題材に児童の学習や生活自立、課題克服に向けた教材として活用されていること。保護者への教育的参画を促して教員と保護者の連携の強化・情報の共有化を図り、特別支援教育の円滑な推進や児童のレディネス形成に活用されていることが明らかになった。まとめとして、今後はしおりの有効活用を目指した指導方法やしおりを通じた児童の変容も研究してみたい、幼児にも活用可能なのではないか等のご提案をしていただいた。

グループワーク

予め、キャリアに応じてグループ分けをさせていただき、テーマのカードを各テーブルに置かせていただいた。カードの内容は「気持ちの切り替え」「言葉の遅れ」「環境の変化と適応」「コミュニケーション」「こだわりの強さ」「暴力暴言」「その他」の内容であり、その中から、現場での実践例や対応方法などのグループワークの時間を設けた。その後、話し合ったことを発表していただいた（気持ちを切り替える工夫・言葉の遅れの対応・幼小の連携・保護者への対応・相談員、保育者の子どもの対応等）。時間の都合で、発表のみであったが、それぞれ有意義な議論をしていただいた。

（文責 埼玉純真短期大学 加藤房江）

障がいのある子の教育と指導・支援

加須市立騎西小学校教諭 齋藤秀吉

1 騎西小学校の特別支援教育について

本校は、児童数300余名の中規模校である。平成23年に加須市と合併し加須市立騎西小学校になる。周囲には、玉敷神社や騎西城などの名所もある。また、住宅地に田園風景も広がり自然豊かな環境にある。特別支援学級は、知的（わかば）学級3名と自閉・情緒（青葉）学級3名の計6名（男子5名、女子1名）が在籍している。通常学級から通級している児童も7名いて、主に学習面での遅れに対応した学習をしている。また、社会性を身につけるため、ソーシャルスキルトレーニングや小集団での自立活動を行っている児童もいる。

2 特別支援学級の実践から

①郵便屋さんの取り組み（生活単元学習）

平成26年度から特活部と協力して「ありがとうの手紙」を全校児童に仕分けして届ける活動を行ってきた。また、暑中見舞いなどをお世話になった先生方に出したり、校内にポストを設置したりしてお互いの交流に努めてきた。

②さいころゲームでの取り組み（教科別の指導「算数」）

2つのさいころを転がし、数を数えたり、たしたり、合計を求めたりしてボードにブロックを早く集め、ゴールした方が勝つというゲームに取り組んでいる。能力差がある児童に対して、個々に目標も設定しやすく、行う活動の意味も分かりやすいため、児童が楽しみながら意欲的に取り組める学習である。また、ブロックを色分けしチームごとに競争したり、ルールを複雑にしたりして発展性がある活動にもなり得る。

③オセロゲーム（ひっくり返しゲーム）や鬼ごっこやドッジボールの取り組み（体育）

今年度からオセロを購入し、体育の時間に2チームに分かれて白と黒のオセロを時間内に自分のチームの色に替える競争を行っている。その教材を通常学級に貸し出し5・6年生でも同じような活動に取り組んでいる。

④掲示物の工夫

図工で作成した作品を廊下等に掲示して、特別支援学級の活動内容を通常学級の児童にも見てもらうにしている。また、夏休み明けには、全校で作品展を行い、保護者にも公開している。

3 授業を作り上げていくための工夫

授業を組み立てるには、まず、椅子に座り人の話を聞ける児童を育てる必要がある。また、なぜ、その学習を行うのか、また、それがどういう形でゴールするのかという根本的な問いに対する見通し

を持ち、実践していくことが求められる。そこで、さいころ ゲームに取り組んだ学習について以下に述べる。

①めあてとルールの明確化

なぜ、この学習に取り組むのか、また、そのために必要なルールは何か考えてゲームを始めることにした。青葉学級の児童は、1年生（A児）、3年生（B児）、5年生（C児）男子3名である。数が読める児童もいれば、まだおぼつかない児童もいる。その中で、一人一人が飽きずに最後まで取り組める内容にしなければ、集中して取り組むことはできずあきってしまう。そこで、A児は、「数えたたしで数唱ができること」、B児は、A児の目標プラス「ルールを守り最後まで取り組みゴールすること」、C児は、B児の目標プラス「かけ算を使い合計を求めること」をねらいとして取り組んだ。そこで、「順番を守り、2つのさいころを転がし、その合計をボードにブロックをのせていくこと」として取り組み始めた。そして、「ボードが早く埋まれば勝ち」というルールで始めた。

②臨機応変な対応

一緒にゲームを始めて見ると、最初から「6」を出そうと置くようにしたり、壁に思い切りぶつけて転がそうとしたり、さいころ一つとってもこちらが意図した通りに進まなかった。そこで、叱ってしまうとゲームが中断して進まなくなってしまった。そこで、それもよしと思い、とにかくゴールすることをめあてに進めることにした。また、どうやったら早くゴールできるのか考えた行動ととらえて、児童の見方を変えるようにしてきた。そうすると、むやみに児童を叱らずに個々の児童のめあてに対応できるようになってきた。

③ゲームの発展性

このゲームは、飽きずに何回も取り組んでいる。「それは、なぜだろう。」と考えてみた。すると、さいころゲームには、どうやれば勝ちなのかははっきりしているし、ルールを変えても応用が利くことに気づいてきた。ブロックの代わりにオセロを置き、白になったら休みとするというルールを設けて双六にしたり、2人1組で一つずつのさいころを振り、先生と競争することもできる。とても発展性があるゲームである。その中で、数の概念やたし算やひき算などの四則計算の基礎が教えられると気づいた。

4 その他の交流及び共同学習の工夫

「特別支援学級の教育活動が教育活動の基礎である」と考える。ユニバーサルデザインやインクルーシブ教育が叫ばれてきているが、その根幹には、まだまだ、教職員や保護者や社会の人々の中に差別や違和感があるという事実があると思う。その中で、どのように特別支援学級の児童を理解し、支援していくか、また、通常学級に在籍している個性ある児童に対応していくのかのヒントがあると思う。学校生活では、次のようなことに気をつけて対応している。

①教育課程の中に位置づけた年間計画の元に実践をしていく。

私たちは、日々の授業をどうしようかいつも悩んでいる。その中で、どういう学習活動を行うか悩む日々である。他校の実践を参考にしたり、本を読んだり、先人の知恵を訪ねたりしながら実践しているのが実情である。それを、毎年、反省しながら教育課程の中に位置づけていくことが大切だと思う。決して、行うことを縛るのではなく、あくまでも計画である。その上で、子どもの実態に応じて変更したり、新たな学習活動を考えられればいいと思う。

②家庭と情報を共有する。

私たちは、子どもと向き合い日々実践している。しかし、それを広げていくには、家庭の協力も必要である。とかく悪い情報は共有しがちであるが、その子のよい情報は共有できていないことが多い。だから、交流ノートや連絡帳を通して共有している。面接して話すのが一番なので、個人面談等でも日ごろの様子を伝え、その子の良いところ、課題となるところを伝え、共有している。

③お互いの「やって良かった」につなげる。

郵便屋さんでもそうであったが、「ありがとうの手紙」を届けることで相手から喜んでもらえる、それが一番の喜びである。児童も教師も同じである。ともに喜びを共有できるのは、大変でも報われた瞬間である。そんな活動を仕掛け、取り組んでいきたい。

④教師の人間関係作りが基本である。

どんな良いと思われる活動でも担任の独りよがりでは、共感は得られない。日ごろからの人間関係が大切である。それには、通常学級での学習活動にも協力したり、声かけしたりしてお互いの理解を深めておくことが大切である。また、職員室での座席配置も大切にしたい。端の方にいたのでは、必要な情報が入ってこない。本校でも、職員室の座席配置を真ん中にしていただいた。その結果、学年との情報交換がスムーズになってきた。アンテナを高くしておくことは大切なことである。

5 その他

すべての基本は学級経営：学習態勢や聴く姿勢を身につけることが基本である。

＜声の抑揚 注目させる工夫 一人一人の名前を呼んで指示を出す等＞

6 終わりに

私たちは、これから高齢化社会に向かっている中で生活している。年をとると誰でもハンディキャップを抱えていくことになる。それが分かっている、人間は弱いもので、自分とは違う人たちとの差を見つけ優越感にひたってしまう。すぐにできなくてもいい。一緒に考える機会があるかないかで、大人になったときに違うと思う。そして、違いを認め、お互いを尊重できる社会になることを願う。「合理的配慮」が必要なくなる社会を目指して。

青葉学級（自閉・情緒）教科別の指導「算数」学習指導案

平成29年1月30日（月）第4校時

活動場所 青葉学級（教室）

学習者 男子5名

授業者 教諭 齋藤 秀吉

1 単元名 1万までの数

2 単元について

（1）単元のねらい

- ・ 金種を理解して、加法、減法などを使い正確に計算することができる。
- ・ 50円玉2枚と100円玉1枚などの等価交換ができる。
- ・ 5、10など数をまとまりとして捉えて、数えることができるようにする。
- ・ 大きな数の大小比較や加法、減法ができる。

（2）児童の実態

本校青葉学級（自閉・情緒）は、2年男子1名、4年男子1名、6年男子2名、6年1組在籍児童1名の計5名でいつも算数の学習を行っている。それぞれの課題に応じてのプリント学習や単元を組んでの学習などを行っている。特に、たし算やひき算、九九や割り算などの計算は好きな児童が多い。反面、文章題になると問題の意味が分からずに自力で解決するのが難しい児童もいる。また、児童の課題が個々に違うので、同じ題材を扱う上では、配慮が必要である。

そこで、今回は、「大きな数」を理解させるために「お金」を使った学習させ、数の概念を身につけることができるようにこの単元を組んだ。青葉学級の児童は、ふだんからお金を使う機会が多い。そこで、「1万までの数」の学習においてそのまま扱うことをせずに、大きな数をお金に見立てて換算させると理解しやすい児童が多い。生活単元学習において、10円、100円、1000円などの模型を使い「買い物学習」に取り組んでいる。その中で、おつりの計算や金額を伝えたりすることはできるが、数をまとまりとしてとらえたり、位取りに気をつけて数唱することが苦手である。以下この単元の児童の実態を述べる。

	生活における児童の実態	算数における児童の実態
A児 2年	・ 自分からやろうとすることは、意欲的に行う。反面、苦手なことは最初から躊躇してやらないことが多い。 ・ 絵や工作が好きで自分から材料を探し描いたり、作ったりする。	・ 1年生の内容を学習している。 ・ 1から20までの数唱はできる。10以上のたし算は、数えたしで行う。 ・ 数の大小や何番目は理解して答えられる。 ・ 金種は理解している。
B児 4年	・ やる順番や生活の流れにこだわりがあるが、最後までやろうとする。 ・ 音楽が好きで、耳で聞いた曲をキーボード等で弾くことができる。 ・ 友達との関わりが苦手で、一人で遊ぶことを好む。	・ 2年生の内容を学習している。 ・ 2桁の繰り上がりのあるたし算と繰り下がりのあるひき算はできる。 ・ かけ算九九はほぼ暗唱できる。 ・ 金種を理解し、1万円までのお金を数えることができる。 ・ 3位数の大きな数の計算はできる。
C児 6年	・ お話が大好きで、一人でどんどんしゃべってしまうことが多い。 ・ 絵が上手で漫画をよく描いている。 ・ サッカーやドッジボールなど球技が得意である。	・ 3年生の学習をしている。 ・ 繰り上がりのあるたし算、繰り下がりのあるひき算ができる。 ・ 小数のたし算、ひき算もできる。 ・ かけ算九九はほぼ暗唱できる。

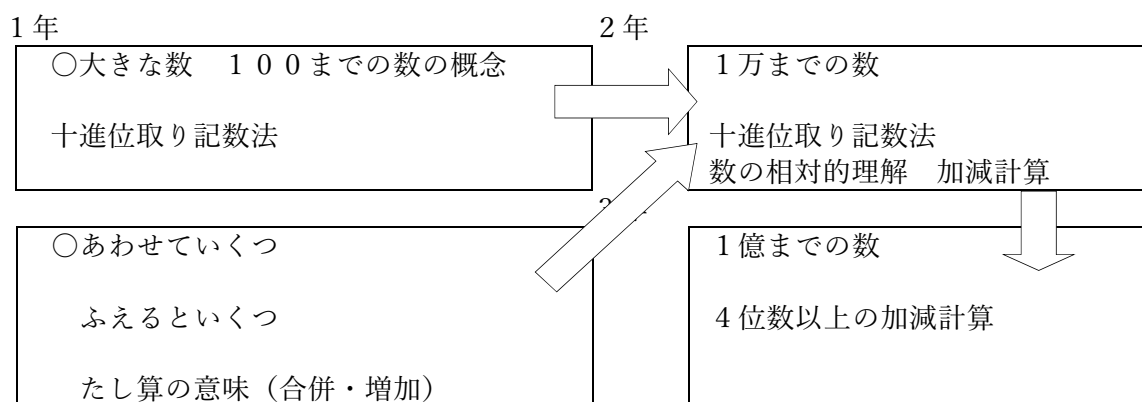
	・身の回りの整理整頓が苦手である。	・金種を理解し、1万くらいの数まで数えられる。 ・4位数の大きな数の計算はできる。
D児 6年	・釣りが好きで、友達やお父さんとよく出かける。 ・朝、起きられずに学校を休むことが多かったが、今では、母親の声かけで起きて、登校できるようになってきた。 ・サッカーやドッジボールなど球技が得意である。	・2年生の学習をしている。 ・繰り上がりのあるたし算や繰り下がりのあるひき算はできる。 ・かけ算九九は、まだ確実ではなく、九九表を見ながらできる。 ・金種は理解して、1万までの数を数えることができる。 ・4位数の大きな数の計算はできる。
E児 6年	・決められた係を責任を持って行うことができる。 ・漢字学習が得意で自主的に練習する。 ・小さい子の面倒をよく見る。 ・1日の生活の流れをよく理解して、進んで行動できる。	・2年生の学習をしている。 ・繰り上がりのあるたし算は、ほぼできる。繰り下がりのあるひき算は、もう一息である。 ・5の段までのかけ算は暗唱できる。それ以上については、九九表を見て練習中である。 ・金種は理解している。1万までの数について数えることができる。 ・3位数の大きな数のたし算はできる。

(3) 指導観

青葉学級の児童は、買い物などの生活の中でお金を使う機会が多い。また、大きな数に興味を持ち、1万円以上のお金にも関心が高い。そこで、お金を使い、それに慣れさせて、大きな数を理解しやすいようにしていきたい。また、数をまとまりとしてとらえられるように2つずつ数えたり、10ずつ数えたりして、数え方を工夫して取り組ませたい。興味関心を高めるため、さいころゲームを取り入れて、より集中して分かりやすく学習できるようにさせたい。また、大きな数の計算ができるようにして、金銭感覚を養い、自分の欲しい物がどのくらいの金額で買えるのかお小遣い帳をつけて、お金を貯める意義についても考えさせていきたい。

さらに、青葉学級の児童は、社会性やルールを理解して取り組むことが苦手な児童が多い。そこで、その特性を考慮して自己決定したり、自己解決したりすることで友だちと協力する楽しさを味わうことができるように支援していきたい。

(4) 単元の系統図



3 研究主題

確かな学力の育成をめざし、言語活動の充実を図る学習指導法の工夫・改善

【仮説】児童の学習意欲を高め、言語活動を充実させた児童中心の練り上げのある授業を展開すれば、確かな学力を育成することができるであろう。

視 点

- 1 課題設定・見通しを持たせるための工夫
ア 実生活に根ざした児童の興味・関心を生かした課題設定
イ 本時で目指す姿を明確にした「課題」の設定
ウ 児童が見通しをもって学習に取り組めるようにするための工夫
- 2 思考過程を共有させるための工夫
ア 個に応じた指導を行う。
イ 主体的に課題を解決できる学習形態の工夫を行う。
ウ 練り上げの仕方の工夫を行う。
- 3 学びの深まりを充実させる工夫
ア 定着・一般化を図るための工夫
イ 適応問題の工夫
ウ 学習の振り返りのさせ方

<手立て>

課題設定・見通しを持たせるための工夫

- ・ さいころゲームを取り入れて、意欲的にまた、集中して取り組めるようにする。
- ・ 始まりと終わりをはっきりとさせ、学習内容をあらかじめ提示する。
- ・ 量が分かる時計を利用し、学習時間を意識させる。

思考過程を共有させるための工夫

- ・ お小遣いノートを作成し、自分のためたお金を書かせ、見合い、計算の仕方を共有するようにする。
- ・ 児童の言葉でまとめられるように発問を工夫する。
- ・ 既習事項を一緒に確認し、ヒントから答えられるようにする。

学びの深まりを実感させるための工夫

- ・ 数の大小を理解できるように、ちらしやカタログを利用し理解しやすいようにする。
- ・ 学んだことが生活にどのように役に立っているのか考えさせる。
- ・ 分かる子が分からない子に教えることでお互いに理解し合えるようにする。

4 単元の目標

- ・ さいころゲームをしながら1万までの数について読んだり書いたりできる。
- ・ 1万までの数の大小を比べて言えるようにする。

5 指導と評価の計画

- (1) 1000を超える数
- (2) 100がいくつ
- (3) 1万
- (4) 練習・たしかめよう
- (5) 「どんなものが買えるかな」学習

時間	学習内容	指導上の留意点	主な評価規準
1	・1000を超える数の物を探す。	・お金・人口・重さ・長さ など具体物で答えられる ようにする。	・十進位取り記数法のよさに気づき、進んで1万までの数を読んだり表したりしようとする。
3	・100のまとまりを捉えて数を数える。	・1000は100が10 個分であることを具体物 で学習する。	・100を単位にして、1万までの数の大きさをとらえることができる。
1/3 本時	・1万までの数の大小を理解する。	・さいころゲームを通して どちらが多くお金を集め たか考えられるようにす る。	・既習の1000までの十進位取り記数法のしくみをもとに、1万までの数の表し方やしくみを考えることができる。 ・1万までの数を読んだり表したりすることができる。また、1万までの数の大小を比較することができる。
2	・抜けている数を数直線などを使い考える。	・数を連続するものとして 捉えられるように数直線 を利用させる。	・1万までの数のしくみを、十進位取り記数法に基づいて理解することができる。
3	・カタログで買えるものを探そう。	・筆算で、お金がいくら集 まったか計算できるようにする。 ・貯めたお金をどう使うの か考えさせる。	・十進位取り記数法のよさに気づき、進んで1万までの数を読んだり表したりしようとする。

6 本時の学習指導（5／12時）

（1）目標

- さいころを振り、自分の出た目をもとに数をたくさん集め、数えることができる。（BCDE児）
- 集めたお金をお小遣い帳につけて、計算できるようにする。（BCDE児）
- 集めたお金の大小が分かり、発表することができる。（ABCDE児）

（2）評価規準

- 既習の1000までの十進位取り記数法のしくみをもとに、1万までの数の表し方やしく

みを考えることができる。また、1万までの数の大きさをとらえることができる。(数学的な考え方)

- 1万までの数を讀んだり表したりすることができる。また、1万までの数の大小を比較することができる。(技能)

(3) 展開

学習活動	発問 (T) 予想される児童の反応 (C) 指導上の留意点 (・) 評価 (☆) 支援 (◎)	時間						
1 今日の学習の流れを知る。	・ お金のさいころを見せて、ゲームをすることを知らせる。 ・ 1時間の授業の流れをボードに書いて知らせる。 ・ 途中でお金の計算をすることを確認する。	2						
2 今日のめあてを知る。	さいころを振り、たくさんお金をあつめ、数えよう！！	3						
3 ゲームの約束を確認する。	T どうしたらたくさんお金が集められるか？ C 大きな数のお金の目を出せばいいよ。 C 何回も大きな数のお金をだせばいいよ。							
4 さいころゲームを行う	・ 1人1回、さいころを2個同時に振る。 ・ お小遣い帳に集まったお金を記録する。 ・ 3回まわったら、お金を数え、金額を発表する。 ・ 1番多くお金が集まれば勝ち。 ・ 話し合いで順番を決める。 ・ 自分の番になったらさいころ取りに行き、振るようにする。 <個人目標> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 33%;">A児 (2年)</th><th style="width: 33%;">BE児 (4・6年)</th><th style="width: 33%;">CD児 (6年)</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ・ 10のまとまりで捉えて数えられるようにする。 ・ お札と硬貨を区別する。 ・ 大小が分かるようにする。 </td><td> ・ 100のまとまりで捉えて数えられるようにする。 ・ お札と硬貨を区別して数える。 ・ 大小が分かるようにする。 </td><td> ・ 1000のまとまりで捉えて数えられるようにする。 ・ お札と硬貨を区別して数える。 ・ 大小が分かるようにする。 ・ A児に教えられるようにする。 </td></tr> </tbody> </table>	A児 (2年)	BE児 (4・6年)	CD児 (6年)	・ 10のまとまりで捉えて数えられるようにする。 ・ お札と硬貨を区別する。 ・ 大小が分かるようにする。	・ 100のまとまりで捉えて数えられるようにする。 ・ お札と硬貨を区別して数える。 ・ 大小が分かるようにする。	・ 1000のまとまりで捉えて数えられるようにする。 ・ お札と硬貨を区別して数える。 ・ 大小が分かるようにする。 ・ A児に教えられるようにする。	3
A児 (2年)	BE児 (4・6年)	CD児 (6年)						
・ 10のまとまりで捉えて数えられるようにする。 ・ お札と硬貨を区別する。 ・ 大小が分かるようにする。	・ 100のまとまりで捉えて数えられるようにする。 ・ お札と硬貨を区別して数える。 ・ 大小が分かるようにする。	・ 1000のまとまりで捉えて数えられるようにする。 ・ お札と硬貨を区別して数える。 ・ 大小が分かるようにする。 ・ A児に教えられるようにする。						

	①さいころを2個同時に振る。 ②出た金額を発表する。→3回行う。 ②出た金額のお金を取る。 ③出た金額をノートに記録する。	21						
	<table> <tr> <th>A児（2年）</th><th>BE児（4・6年）</th><th>CD児（6年）</th></tr> <tr> <td> ① 1個ずつさいころを振る。 ② 出た金額のお金を取り、金種ごとに箱に入れる。 ③ 出た金額をノートに書く。 ④ 3回終わったら、お金を数える。 ◎分からないときは、CD児に教えてもらう。 ☆10のまとまりで金額をとらえることができたか。 ☆お札と硬貨を区別することができたか。 ☆金額の大小が分かったか。 </td><td> ① 2個同時にさいころを振る。 ② 出た金額を見て発表する。 ③ 出たお金を取り、金種ごとに箱に入れる。 ④出た金額をノートに書く。 ⑤3回終わったら、合計金額を計算しノートに書き、発表する。 ◎友だちの振る数も見るように促す。 ◎自分からどんどんやろうとすることを褒める。 ☆100のまとまりで金額をとらえることができたか。 ☆お札と硬貨を区別することができたか。 ☆金額の大小が分かったか。 </td><td> ① 2個同時にさいころを振る。 ② 出た金額を見て発表する。 ③ 出た金額のお金を取り、金種ごとに箱に入れる。 ④ 出た金額をノートに書く。 ⑤ 3回終わったら、合計金額を計算しノートに書き、発表する。 ◎友だちの振る数にも関心が持てるように声かけする。 ◎A児に教えるように促す。 ☆1000のまとまりで金額をとらえることができたか。 ☆お札と硬貨を区別することができたか。 ☆金額の大小が分かったか。 </td></tr> </table>	A児（2年）	BE児（4・6年）	CD児（6年）	① 1個ずつさいころを振る。 ② 出た金額のお金を取り、金種ごとに箱に入れる。 ③ 出た金額をノートに書く。 ④ 3回終わったら、お金を数える。 ◎分からないときは、CD児に教えてもらう。 ☆10のまとまりで金額をとらえることができたか。 ☆お札と硬貨を区別することができたか。 ☆金額の大小が分かったか。	① 2個同時にさいころを振る。 ② 出た金額を見て発表する。 ③ 出たお金を取り、金種ごとに箱に入れる。 ④出た金額をノートに書く。 ⑤3回終わったら、合計金額を計算しノートに書き、発表する。 ◎友だちの振る数も見るように促す。 ◎自分からどんどんやろうとすることを褒める。 ☆100のまとまりで金額をとらえることができたか。 ☆お札と硬貨を区別することができたか。 ☆金額の大小が分かったか。	① 2個同時にさいころを振る。 ② 出た金額を見て発表する。 ③ 出た金額のお金を取り、金種ごとに箱に入れる。 ④ 出た金額をノートに書く。 ⑤ 3回終わったら、合計金額を計算しノートに書き、発表する。 ◎友だちの振る数にも関心が持てるように声かけする。 ◎A児に教えるように促す。 ☆1000のまとまりで金額をとらえることができたか。 ☆お札と硬貨を区別することができたか。 ☆金額の大小が分かったか。	10
A児（2年）	BE児（4・6年）	CD児（6年）						
① 1個ずつさいころを振る。 ② 出た金額のお金を取り、金種ごとに箱に入れる。 ③ 出た金額をノートに書く。 ④ 3回終わったら、お金を数える。 ◎分からないときは、CD児に教えてもらう。 ☆10のまとまりで金額をとらえることができたか。 ☆お札と硬貨を区別することができたか。 ☆金額の大小が分かったか。	① 2個同時にさいころを振る。 ② 出た金額を見て発表する。 ③ 出たお金を取り、金種ごとに箱に入れる。 ④出た金額をノートに書く。 ⑤3回終わったら、合計金額を計算しノートに書き、発表する。 ◎友だちの振る数も見るように促す。 ◎自分からどんどんやろうとすることを褒める。 ☆100のまとまりで金額をとらえることができたか。 ☆お札と硬貨を区別することができたか。 ☆金額の大小が分かったか。	① 2個同時にさいころを振る。 ② 出た金額を見て発表する。 ③ 出た金額のお金を取り、金種ごとに箱に入れる。 ④ 出た金額をノートに書く。 ⑤ 3回終わったら、合計金額を計算しノートに書き、発表する。 ◎友だちの振る数にも関心が持てるように声かけする。 ◎A児に教えるように促す。 ☆1000のまとまりで金額をとらえることができたか。 ☆お札と硬貨を区別することができたか。 ☆金額の大小が分かったか。						
5 学び合い								
6 学習の振り返り	・3セット終えたところで、その合計を計算させる。 ・それを発表させる。 ・お互いの良さに気づかせるようにする。 Tだれのお小遣いが1番多いですか。 C ○○君です。 T本当ですか。 C本当です。 Tどうしてそう思いますか。 C1万円は千円より多いからです。 C1万の位が1番多いからです。 ・学習して感じたこと、分かったことを発表する。 T今日の学習で分かったことはありますか。 C大きい金額のお金を集めると1番になれます。 C計算が難しかったです。 T集めたお金で何を買えるか考えてみましょう。 Cゲームです。 T先生は、旅行に行きたいです。	6						

(4) 板書計画

<かだい>

さいころをふり、たくさんのお金を
あつめ、教えよう！！

<やくそく>

- ・ 1人1回2個のさいころをふる。
- ・ 3回まわったら、お金を数える。
- ・ おこづかいちょうに集めたお金を記録する。

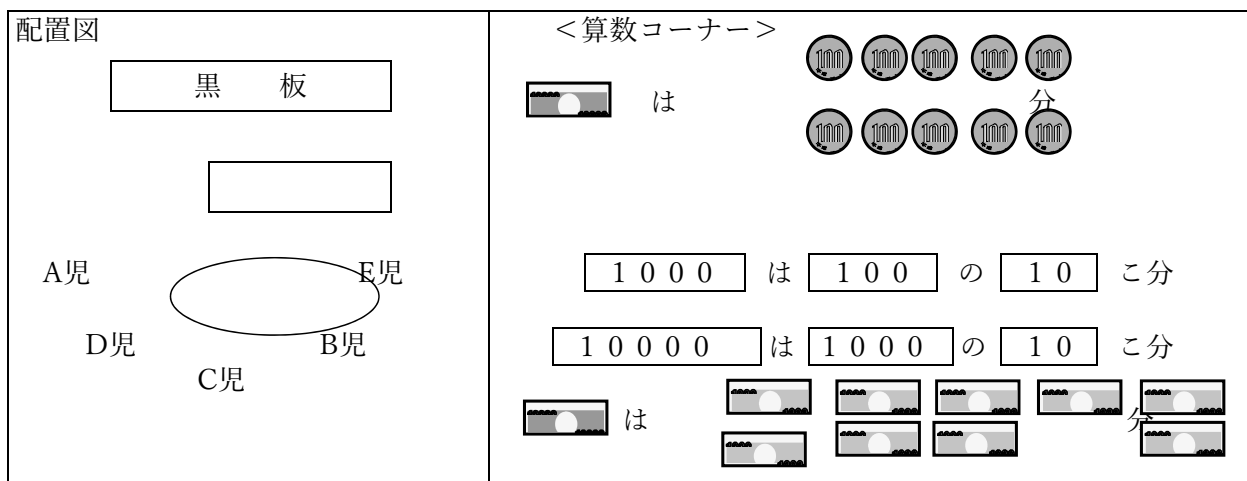
<ごうけい>

	A児	B児	C児	D児	E児	
①						
②						
③						
						合計
						順位

千	百	十	一

万	千	百	十	一





7 評価

(1) 単元目標に係わる評価

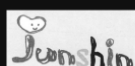
1万までの数について読んだり書いたりできたか。

(2) 個人目標に係わる評価

①個に応じた自己評価

②個に応じた支援をし、個人目標が達成できたか。

29年度研究セミナー第3講座
特別支援教育を生かす
学級・授業づくり



平成29年11月25日(土)
埼玉純真短期大学 伊藤道雄

1、どの子もかけがえのない—
人

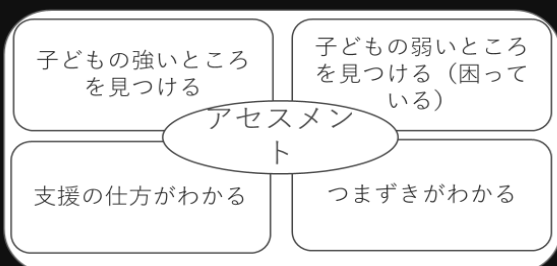
- ・2016年7月26日未明
- ・津久井やまゆり園・19名の障害者を殺傷
「相模原殺傷事件」

「障害者なんていなくなればいい」

- 全国手をつなぐ育成会のメッセージ
- 「手をつなぐ」2017年7月号「事件から1年」

3、「授業づくり」のキーワ
ード

●一人一人を見つめる
子ども理解のアセスメント



発達障がい児を理解する

ADHD

○注意の集中の困難さ

○多動性 ○衝動性

LD

○聞く・話すことの困難さ

○読む・書くことの困難さ

○計算する・推論することの困難さ

自閉症
スペク
トラム

○対人的相互作用の困難さ

○コミュニケーションの困難さ

○こだわりのある常同行動

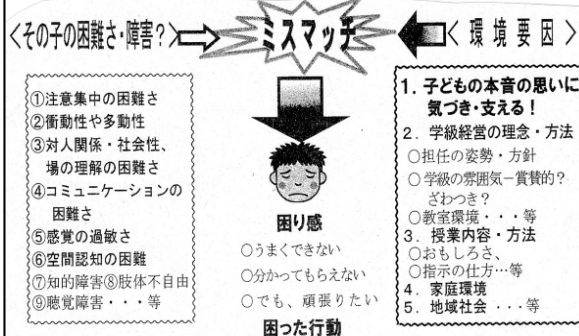
○感覚の過敏性

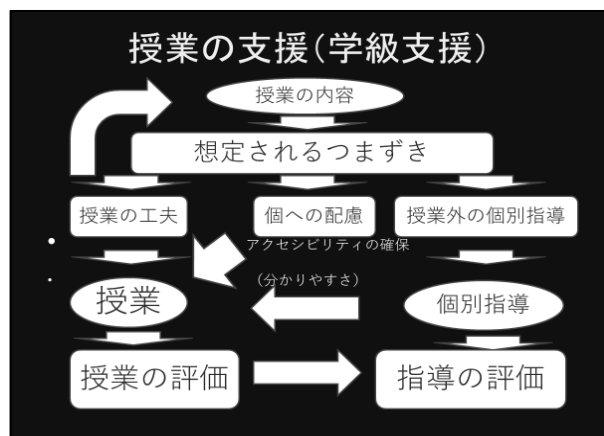
宮口幸治



困っている子どもの特徴《5点セット+1》

佐藤 慎二





学級での教育の工夫

★どの子もなくてはならない学級の一員

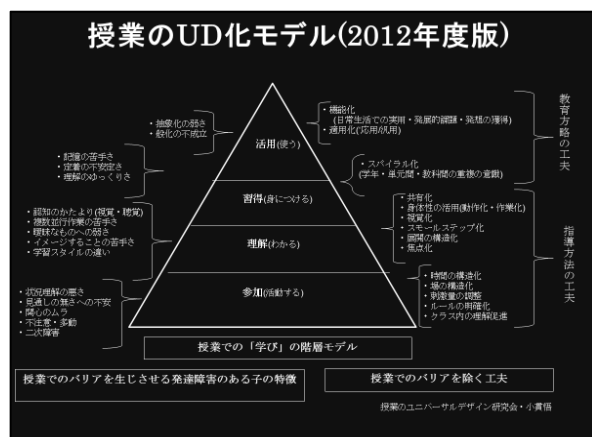
- ・誰もが「わからない」と言える雰囲気
- ・失敗しても「大丈夫」

★通常の学級では、授業のユニバーサル化

- ・障害のある子も参加できる教育方法の工夫

●アコモデーション
教育目標や内容を変更せず、教育方法を工夫
(提示の工夫や応答の変更)

●モディフィケーション
教育目標や内容・教育方法の変更を加える



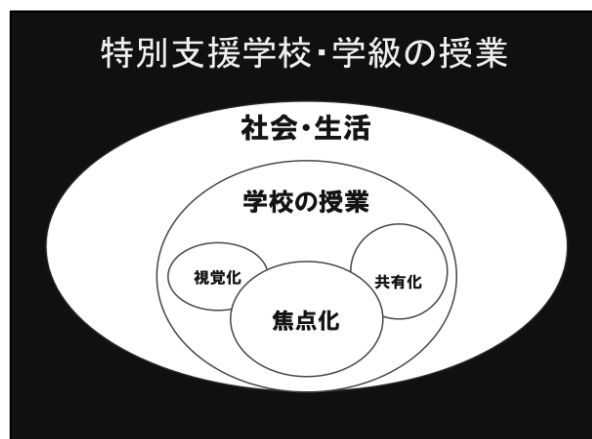
●理解を促す授業の展開

参加するために

- 場の構造化
- 時間の構造化
- 刺激量の調整
- ルールの明確化
- クラス内の理解・促進

理解するために

- 焦点化
- 共有化
- 視覚化
- 身体性活用(動作化・作業化)
- 展開の構造化
- スモールステップ



セルフ・エスティーム (自尊感情・自己有用感)

不完全な自分を好きになる

できないことがあってもいいんだ
他にこんないいところがあるんだ

苦手は助けられ、得意分野で貢献する

得意 苦手 得意 苦手 得意

自己決定の力の育成 (セルフ・ディターミネーション)

講座3

「記録」

障がいのある子の教育と指導・支援

加須市立騎西小学校教諭 齋藤秀吉
埼玉純真短期大学教授 伊藤道雄

はじめに

・講座の流れを述べる（伊藤道雄の提案、齋藤秀吉の提案、質問、協議、まとめ）

1、「特別支援教育を生かす学級・授業づくり」 （伊藤道雄）

（1）障がいのある子の教育を考えるに当たって

①「どの子もかけがえのない子であること」

○2016年7月26日の津久井やまゆり園の殺傷事件について

- ・7月26日夜に全国手をつなぐ育成会より障がいのある人に向けたメッセージがだされた。→通常の日常を過ごしましょう。いつもと同じでいいのです。皆さんを私たちは守ります。皆さんを助ける人は沢山います。困った事があれば身近な人に相談してください。
- ・一年後の機関誌の特集号には穏やかな家族の写真が掲載された。この笑顔を私たちは学校生活で追究したい。

（2）授業づくりのキーワード

①一人一人の実態をみつける

- ・アセスメントの重要性（子どもの強いところ→支援の仕方がわかる）
（子どもの弱いところ→つまずきがわかる）
- ・発達障害児を理解する（ADHD, LD, 自閉症スペクトラムの障害の定義）
成長するに従い2次障害が現れる。
- ・少年院からの報告（絵）から本人にあった環境の設定が大切であることが述べられる。

②授業の支援：①個別の課題に即した個別指導の実施がある。

：②授業の工夫等を通した個別の配慮（アクセシビリティ）がある

- ・ユニバーサルデザイン研究会の図表に基づき、まず、学級づくりを大切にする。
- ・どの子もなくてはならない学級の一員である。
- ・失敗しても大丈夫といえる信頼、雰囲気醸成する。
- ・アコモデーション（教育目標や内容を変更せず、教育の方法を工夫して行うこと）
- ・モディフィケーション（教育目標や内容・教育方法の変更を加えること）の違いを教師は明確にして授業を実施することが肝要である。

③「参加」「理解」を促す授業の展開

参加するために：場の構造化、時間の構造化、刺激量の調整、ルールの明確化、
クラス内の理解促進

理解するために：焦点化、共有化、視覚化、身体的活用、展開の構造化、スモールステップ

④セルフ・エスティーム（自尊感情・自己有用感）を育成する。

2、「発達障がいのある子の教育と指導・支援～特別支援学級の教育実践～」 （齋藤秀吉）

（1）郵便屋さん

- ・校内の特別活動部と連携して「ありがとうの手紙」を特別支援学級で仕分けし、校内の各学級に配達する活動を実施する。
- ・ポストを校内の学級ごとにつくる、帽子の色で学年を分ける。
- ・1年生のダウン症の児童が高学年の児童に手紙の返事をだした。感動した。
- ・本物を具体的に見せる活動も大切である。（郵便局）

（2）さいころゲーム

- ・2つのさいころを転がし、数を数えたり、足したり、合計を求めたりしてボードにブロックを集めゴールした方が勝つというゲームを行う。能力差がある児童に対して個々の目標が設定しやすく活動も分かりやすい。ブロックを色分けしチームごとに競争したりルールを複雑にしたりして発展性がある活動にも繋がる。

（3）オセロゲーム

- ・白と黒のオセロを時間内に自分のチームの色に変え、数を競うゲームである。通常の学級にも貸し出し、5・6年生も活用している。

（4）掲示物の工夫

- ・廊下等に掲示物を展示し、特別支援学級の理解啓発を図っている。

（5）授業の工夫

- ・めあてとルールの明確化に留意する。
- ・臨機応変な対応
- ・ゲームの発展性

（6）交流及び共同学習

- ・教育課程に位置づける、・家庭の情報を共有する、・お互いに「やってよかった」
教師の人間関係づくりが基本

3、質問・感想

- ・児童一人一人はどの子も価値を持っている。それが例えば野球のように役割をもって一人一人生かされるように工夫することが必要である。（感想）
- ・先生方の研修はどのように成されているのか知りたい？（質問）
→課題のある子どもを学校であげて研修をする。専門家の巡回相談。支援員の配置、学校の共有理解、コーディネーターによる研修会など様々な取り組みがなされている。
- 校内での研修体制は色々作られているが、やはり親と保護者が共通に理解し合うことが大切である。そのために、例えば読んで面白い連絡帳を書くことも一つである。
- ・特別支援学級の「道徳」の授業はどのように行ったらよいか。（？）
→生活の中で生かす取り組みが大切です。教科書が教材ではなく、実際の生活で登場する人やものを生かす（教材）取り組みが必要である。

（文責 埼玉純真短期大学 伊藤道雄）

障がいのある子の子育てと支援

全国LD親の会 埼玉親の会「麦」事務局 矢崎弘崎

発達障害のある子の子育てに学ぶ
埼玉純真短期大学

講座4
障がいのある子の子育てと支援



全国LD親の会所属
埼玉親の会「麦」事務局 矢崎弘美
2017/11/25

1 発達障害のある子の子育て

(1) 発達障害とは？

発達障害者支援法における定義
自閉症、アスペルガー症候群、
その他の広汎性発達障害、LD、ADHD、
その他これに類する脳機能の障害であり、
症状が低年齢において発現するもの

大きく分類すると

自閉症スペクトラム ・ LD ・ ADHD
重複する部分もあり、同じ診断名であっても、
特性のあらわれ方は人によって異なる

(2) 自閉症スペクトラム (ASD) ＝ 広汎性発達障害 (PDD)

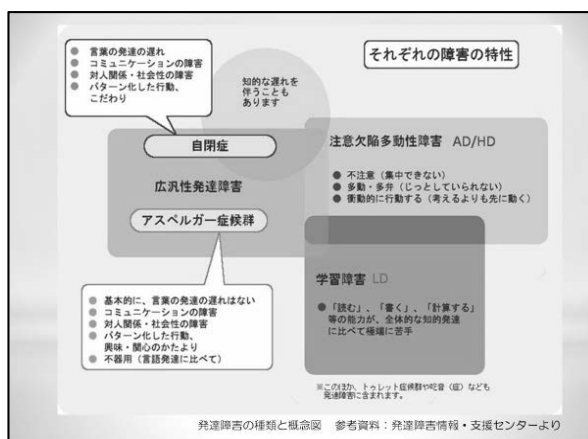
- ①対人関係やコミュニケーションの障害
- ②同一性のこだわり、興味や関心の狭さ
- ③想像力の障害、特異な感覚（過敏・鈍麻）

(3) LD（学習障害）

知的に遅れはないが、特定分野の学習面に
特異なつまずきがあり、習得が困難
聞く、話す、読む、書く、計算する、推論する等

(4) ADHD（注意欠陥多動症）

不注意・多動性・衝動性の3つの特徴



(5) 周囲の誤解と偏見

得手不得手、好き嫌い、物事の価値観
誰でもあるが、発達障害のある人は差が大きい
みんなと違うことが多いと、
生活に支障をきたしやすい

周囲とのズレから生じる誤解と偏見

親の育て方が悪い
愛情不足では？
本人の努力不足、わがまま
「それくらいできるはず」
「ちょっと変わった子」



イラスト：浜戸市「二次障害をなくそう」より

周囲の理解と配慮、適切な環境
苦手な事が目立ちにくくなる つらさが軽減できる

(6) 不適切な環境による二次障害

不適切な対応により、本来抱えている困難さとは
別に生じる情緒や行動の問題

子どもの頃の傷ついた体験
否定的な評価、叱責等の積み重ね ⇒ 自尊心の低下

外在化：行動の問題として、他者に向けて表出する
極端な反抗、暴力、家出、反社会的行為
行為障害、反抗挑戦性障害など

内在化：情緒の問題として、精神的に苦痛が生じる
気分の落ち込み、強迫症状、対人恐怖、ひきこもり
社会不安障害、強迫性障害、うつ病、など



2 立場によって異なる悩み

(1) 保護者の抱える悩みとは？

- ・障害と分かなければ「どうしてだろう」と困惑する
- ・つい定型発達の子と比較してしまう
- ・どのように教えたらい良いのか分からない
- ・子どもが問題を起せばダメな親と言われ、いくら頑張っても親ならそれくらい当然と評価されない
- ・周囲と子育ての話題が合わず、気まずく居心地が悪い
- ・相談場所が少ない（予約待ち、相談が限定的）
- ・トラブルの度に周囲に謝罪を繰り返す
- ・家族が一丸となってサポートできるとは限らない
- ・本人の思い、親の願い、支援者の助言が合致しない特がある
- ・将来への不安（見通しが持てない、進路先、親亡き後）



(2) 本人の抱える悩みとは？

- ・障害と分かるまでは、できない自分を責めてしまう
自分の努力不足や我慢が足りないと思いがち
行動や感情のコントロールができず、自己嫌悪になる
- ・苦手なことを無理強いされてしまう
- ・悩みをなかなか打ち明けられない
相談相手が自分の気持ちを分かってくれない
誰に相談したら良いか分からない
- ・安心できる居場所がない
周りは刺激だらけ、自分と合わないところが多い
家族と意見が合わなければ、家庭でも居場所がない
- ・自分にとって欲しい支援が受けられない
- ・何とかしたいが、自分でもどうしたら良いか分からない
- ・将来への不安（投げやりになることも）



(3) 周囲の抱える悩みとは？

＜相手が発達障害だと分かっている場合＞

- ・些細なことの反応が過激で、驚いてしまう
その程度で怒るの？ これくらいでもダメなの？
地雷（過激反応）ポイントが分からない
- ・相手の障害を理由に我慢させられることが多い
障害だと分かっているが、こちらのことも考えて欲しい
- ・配慮することに疲れてしまう
余力がある時はサポートできるが、いつもは辛い
- ・必要なサポートが分かりにくい
仲間に誘ってあげたが、1人が好きなタイプだった
- ・お付き合いの距離感が分からない



(4) 支援者の抱える悩みとは？

- ・提供できる支援に限界がある
提供してあげたいけれど、現状では無理
過度な支援には応えられない
- ・支援の成果が見えにくい
モチベーションの低下、効果がないと疑われる
- ・トラブルの原因把握が難しい
特性や環境によるもの、二次障害、複合的なもの
- ・関係者間の意見調整に苦慮する
- ・本人に関わる期間が限られる（利用年齢）
関係機関との引継連携体制と家族との関わり
- ・別の仕事もあって、この問題だけに専念できない



3 不安やストレス

みんなと同じようにできないもどかしさ

- ・どんなに注意しても、同じ失敗を繰り返してしまう
- ・周りの子は簡単そうにできるのに、努力してもダメ
- ・悔しい、やるせない、うらやましい

障害が原因と分かっている、モヤモヤする

孤立感

- ・友人に相談したら「誰でも苦手はある」と片付けられてしまう
その程度で済む問題ではないのに、分かってもらえない
- ・周囲（家族ですら）に理解者や協力者が少ない
または、的外れな助言や口出しで余計に混乱する
障害を理解してもらえず、頼りになる人がいない

様々な不安やストレス

- ・相手と気持ちが通じない
- ・成果が上がらないと、今のやり方に自信がなくなる
- ・見通しが立たない
- ・いじめやからかいの対象になってしまう
- ・我慢できない感覚過敏による不快感
聴覚・視覚・嗅覚・味覚・触覚



常にストレスに晒されているにも関わらず、
周囲から理解されるところか、批判されてしまう
二次的問題の発生の恐れ



まず、その子の気持ちに寄り添ってあげる

4 本人の気持ちに寄り添う（擬似体験）

体験を通して考えてみよう

- ・どうしてできないの？
- ・どんなことをされるとイライラするの？
- ・どんなことだったら分かりやすいの？

問題1で感じた事

問題2で感じた事



参考資料：札幌市発行「虎の巻シリーズ」より

5 求められる支援とは

- 自己肯定感 (self-esteem) を向上させる
他者と比較せず本人の良さを認める ほめる事と感謝の言葉
- 具体的な説明や指示
曖昧な言葉 (しっかり、ちゃんと) は使わない
見本の提示、簡潔な説明、確認メモを残す (視覚や聴覚の記録)
やっていけない事ではなく、やってほしい内容を伝える
- 支援ツールの活用
パソコン、アプリ、ICレコーダー、DAISY (音声ソフト) 等
- 環境の調整
集中作業できる環境 (聴覚や視覚等の刺激を少なくする)
リラックスできる場の提供
- 柔軟な対応
特定の支援方法に固執しない 様々な工夫を試みる
- 周囲との連携
地域資源を活用し環境調整を図る
チーム内で協力しながらサポートする 情報の共有と相互理解

6 まとめと課題

長い目で物事をとらえる

- 今、抱えている「目の前の問題」にとらわれ過ぎない
「将来目標」のための何ができるかが基本 無理は挫折につながる
ひとつひとつステップアップ、時にはステップダウンも・・・
- 社会で生きていけるように育てる

本人以外に支える側への支援

- 本人と情緒的な相互関係が上手に築けない
- 何でも自分ひとりで頑張りすぎてしまう
→バーンアウトしてしまうことも (燃え尽き症候群)

子ども本人への支援が最優先だが、
保護者や支援者が疲弊して倒れないように
みなさんとお子さんが笑顔で過ごすことが大切
ご清聴ありがとうございました

“僕を私を産んでくれてありがとう！”～子ども達の笑顔のために～

埼玉純真短期大学特任准教授 丸山アヤ子

1. 発達障がい児と被虐待児の特徴の違いは？

・初めて注目されたのは1989年日本嗜癪行動学会の発表「ネグレクトで育った子どもはADHDの傾向を持つ」

(1)【褒められ時に脳に差が出ている】～報酬系の脳に差が出る～

①ADHDの場合

「たまにピリッとした緊張感のある空気を作る」「軽くではなく、大げさに褒める」この二つを使い分ける。

⇒一般的な子であれば、四六時中大げさに褒めたり、ピリッとした緊張感のある空気を用意する必要はなく、緊張感など、特に何もない状態があっても大きく問題になることはない。

⇒ADHDの子供は集中ホルモンが一般の人よりも少なめに出ているので、一見すると怠けているように見える、ぼーっとしているように見える、落ち着きがないように見える。これは、集中ホルモンが前頭前野に十分に行き届いていないため、自分の感情と行動を抑制したり注意力をコントロールできないためである。

②被虐待児の脳

1歳前後でネグレクトも含め身体的ないしは性的な虐待を受けていた経験のある子供の脳は、報酬系がほとんど機能していない。

⇒その特徴は、自己肯定感が低く回避的であること。どんなに褒めても全く心に響かない。

⇒回避的というのは、他人との関わりを持とうとしないという意味。他人に対して関心がなく、一見すると発達障害にも見えるので医者による鑑別が難しいこともある。

⇒虐待やネグレクトによって障害された報酬系は、大きな報酬だろうが小さな報酬だろうが殆ど活性化しない。

⇒この報酬系の機能が低下していれば低下している程、より孤立を好む「回避型」の傾向になる。

⇒これが自閉症との鑑別を難しくしている理由の一つ。

⇒ 言い換えれば、報酬系をどうにか発達させれば、他人に対する興味や関心を持たせられる可能性もある。

(参考Soma Housキッズスクール脳科学児童デイサービス2017.06.06 <http://www.sh-kidscare.jp/column/83>)

II. 子どもの発達・特徴「虐待を受けた子どもの精神的特徴」

虐待による精神的な影響は大きく愛着の問題とトラウマの問題に分けることが出来、それらは相互に影響。愛着が育っていないとトラウマを受け易くなる。トラウマを受けることによって愛着も育ちにくい状態を生じる。それらの問題の結果、基本的な「自己感や他者との関係に重大な障害をもたらす危険が生じる」のである。

(1)愛着の問題

①「愛着行動」とは？：人間にとって遺伝的に組み込まれている行動であるが、生まれた後、環境の中で引き出される行動。

⇒愛着行動：親(保育者)が子どもとリズムを合わせることによって生じるアタッチメント（愛着行動 Bowlby、1988）である。

⇒ネグレクトで情緒的に放置：虐待に至る親の特徴の一つにぬいぐるみを可愛がるように「自分の思いでべたべたするが子どものリズムに合わせる事が困難」な場合がある。

・その結果…一見かわいがっているように見えても「愛着行動が歪んだ形」となる事が多い。

②愛着行動の「充足」と「不足による障害」

⇒愛着行動が充足している場合：子どもは自分を守ってくれる人を基本的に信頼して依存し、万能感を持ち、それを元に自己を育てることができ、「自己肯定感」が育つ。

⇒愛着行動が不足の場合：自分を守ってくれる存在を感じられず、常に「自分で自分を守るための臨戦態勢を取らざるを得なくなる」。

・特徴…子どもは、常に過覚醒の状態となり、あちこちに注意を向けなければならず、ちょっとした事で興奮しやすくなる。そのため、一見多動であり、落ち着きがなくなり、自己を主張しすぎたり自己コントロールがうまくいなくなる。

・また…「偽成熟」となり、「表面は大人っぽく振る舞う」が、真の「自己は発達が遅れてしまう」こともある。

③愛着障害の子どもの特徴：他者との良い関わりが取れない⇒他者と感情的な疎通が取れない。

・抑制型愛着障害：凍り付いた表情…関わりづらい。比較的幼い乳幼児に多く見られる。

・脱抑制型愛着障害：誰にでもベタベタするが本来の1対1の関係が取れない…幼児期以降(小学生～)に多く見られる。

⇒一見、甘え上手に見えるが、相手のリズムに合わせる事が出来ない。長期に関わると他者が不快な思いになる可能性。

・両方型愛着障害：一人の子どもが普段は脱抑制型であるのに、状況の変化により抑制型になる。両

方の型が出現。

※いずれの型でも他者にとっては関わりやすい相手ではないため、更に愛着を育てるチャンスは少なくなる悪循環を生じる。

(2)トラウマの問題：トラウマとは「心理的外傷」のことである。

恐怖体験があると、その体験は記憶の中で叙述として統合されずに孤立した形になり、コントロールがつかない形で蘇ったり、無意識の内にその状況を回避したり、過覚醒になったりする。同じトラウマでも災害や事故によるトラウマとは異なり、虐待によるトラウマは以下のような特徴がある。

①易トラウマ反応：同じ体験をしてもトラウマになりやすさには個人差がある。

⇒トラウマになり易さ：恐怖体験の強さと同時に体験をした人の抵抗力が関係する。

⇒トラウマへの抵抗力を育む：「他者への基本的信頼に基づく安心感が育つ必要」がある。

⇒「安全で安心した感覚」が育って無い：一般の子どもは耐えられる問題でも「極端な恐怖」を感じトラウマとなる場合多。

⇒ネグレクトで育った子ども…採血や脳波検査などの必要な医療手技を行う時、極端な不安を示し、中にはパニックになる。

⇒周囲がいくら安心させようとしても、信頼しきれない。

・その結果…更に強いトラウマ反応を引き起こし以後来院する前に非常に不安になったり睡眠障害が出現することもある。

⇒被虐待児：どのような虐待でも「安心感が育っていない」ことが多く見られる。

※愛着に問題を持つ被虐待児：「体験がトラウマになりやすい傾向」をもっているといえる。

②癒しの場の欠如：児童虐待の場合、子どもにとって本来癒しの場となるはずの家庭が、恐怖体験の場となっている。

⇒子どもたちは受けたトラウマを癒すことが困難となる。

⇒例1：年少児家族外での性被害…家族がそれを認めて子どもを守る行動をとると、分離不安が著明となって幼稚園や学校へ行かなくなることが多い。しかし、家族が支えている限り、子どもたちは家族の中でトラウマを癒していく。

⇒例2：家族内での性虐待…表に出る心的外傷後ストレス障害の症状は一見少なく見えるが、子どもは「強い罪悪感」「愛情と性行為の混同」などが見られ、その後の性の発達や人間関係の発達に大きな問題を残す：丸山ケース例：母家出⇔風俗戻る

⇒児童虐待：トラウマを癒すはずの場所がトラウマの場所の為、トラウマが癒されず継続し、精神発達に大きな障害が残る。

③トラウマの持続：災害や事故などによるトラウマは1回の事件の結果であることが多いが、虐待は持続して起きる。

⇒一生続くこともある。トラウマになり易さがある上に癒しの場がない子どもたちにとって持続する虐待体験はトラウマを受けるような人間関係が当たり前と錯覚される。

⇒子どもが安全な場所に保護された後…その人間関係にあき足らず「トラウマを促す行動を見せる」「再びトラウマを受けるような関係性の中に戻ってしまう」こともある。

④発達の重要な時期：人格形成に最も重要な発達の時期の子どもに頻回なトラウマが続くことは発達へ重大な影響を及ぼす⇒トラウマという自己に統合できない異物を抱え、癒す前に次々とそれを重ねることは、発達に大きな影響を及ぼす。

⇒その影響は、心理的影響にとどまらず「成長の障害」「認知の障害」をもたらすこともある。

⇒乳幼児期に情緒的ネグレクトを受けた子ども…「十分な栄養が与えられていても低身長の子どものが多く」、「知能やその他の認知能力の発達に問題を持ってくる」可能性も指摘されている。

⇒年少時からの被虐待体験：子どもの精神発達に大きな障害を残し、その状態が続くほど非可逆的な発達上の障害を残す。

※児童虐待は、「早期発見」し、早く虐待を取り除く対応することが重要。

⑤虐待によるトラウマ反応の特徴：虐待によるトラウマは長期に頻回に起きるという特徴（Terr1991）

⇒事故・地震や突然の無差別暴力等、突然の一回のトラウマ：再体験、回避及び精神活動の低下、過覚醒といった典型的な外傷後ストレス障害の症状が見られることが多い。

⇒虐待の場合：否認、感情麻痺、解離、強い怒り等の症状が多い。解離の傾向は被虐待児に多い（奥山、西澤、他、2000）。

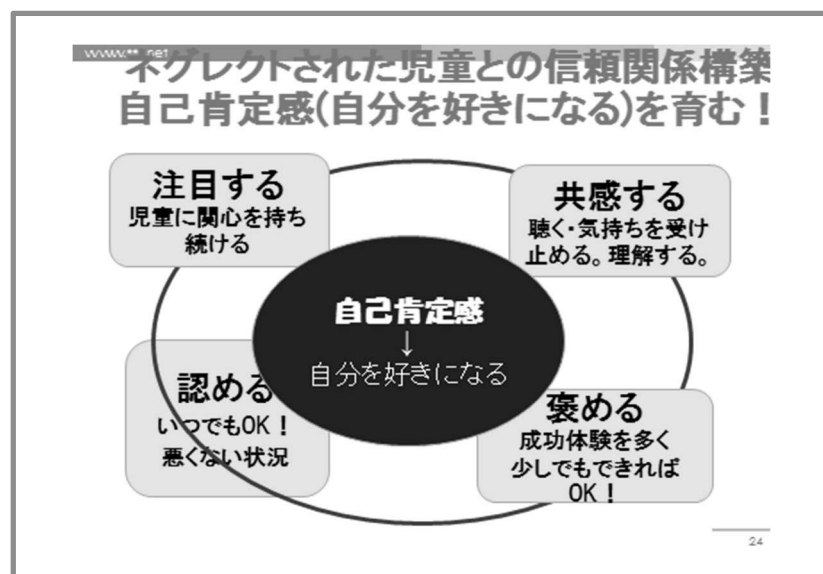
⇒解離とは自己の連続性を失うこと：ある状況になると本来の自分ではなくなり、戻った時にはその間の記憶がなくなる。

参考：愛育ネット「児童虐待と心のケア」 奥山眞紀子（埼玉県立小児医療センター保健発達部精神科医長）

3. 虐待による発達への影響と精神症状（母子保健情報第42号/2000年12月「特集：虐待をめぐって」より転載）

	ネグレクト	身体的虐待	性的虐待	心理的虐待
発達への影響	愛着関係の欠乏・歪み 基本的信頼の欠乏 受容されている感覚の欠乏 万能感の欠乏 発達刺激の欠乏 構造の欠乏・歪み	外傷体験 信頼感の低下 罪悪感による自尊感情の低下 愛情と暴力の混同 暴力による解決方法の学習	外傷体験 愛情と性の混同 受容できない現実 秘密を守る負担 汚いという自己認識 身体への過度の関心	自己否定 外傷体験 信頼感の欠乏 善悪の混乱
精神症状	<u>精神活動の低下</u> ・精神発達の遅れ ・感情の極端な抑圧 <u>自己感の発達の障害</u>	<u>外傷による障害</u> ・記憶の問題：記憶の進入/記憶の抑圧、等	<u>外傷による障害</u> ・同左 <u>抑鬱</u> ・同 左	<u>自尊感情の障害</u> ・抑鬱 ・自己破壊

・身体感（リズム・食欲等）の障害 ・自己境界感覚の障害 ・自己の連続性/自己の主体性の障害 ・自尊感情の障害 ・偽成熟・自己刺激行動 <u>自己調整能力の障害</u> ・易興奮性 ・極端な頑固さ ・多動 ・衝動性 ・暴力 ・自傷行為 <u>刺激防御能力の障害</u> ・自己治癒能力の低下 ・易刺激性 <u>満足感の障害</u> ・過食、早食い/隠れ食い盗み/万引き、等 - 他者関係能力の障害 ・無差別的愛着 ・希求と回避の混在 ・共感性の低下	・生理的防衛：睡眠障害/過度の警戒/易刺激性、 ・心理的防衛：精神活動の低下/抑圧/孤立化/解離/二分化、等 <u>虐待者への同一化</u> ・自傷行為 ・自殺願望 ・幻聴 <u>自己調整能力の低下</u> ・易興奮性 ・多動 ・衝動性 ・暴力 ・自傷行為 <u>抑鬱感情</u> ・楽しむ能力の低下 ・学習能力の低下 <u>無力感：行為の傷害</u> ・弱いものへの暴力 ・反社会的行為	<u>自尊感情の低下</u> ・汚いと思う ・無力と思う <u>自己破壊行動</u> ・アディクションを含む <u>ファンタジー傾向</u> ・白昼夢、虚言 <u>身体化障害</u> <u>性行動の障害</u> ・過度の性行動 ・性的誘惑 ・性的関係への過度の不安 ・異性への希求と回避	- 行動 ・学習の問題 <u>その他の自己感の障害</u> （ネグレクト参照） - 他者関係の障害 ・孤立傾向 ・他者への希求と回避 - 外傷による障害 ・同 左 - 自己調整能力の障害 （ネグレクト参照）
--	---	---	---



障がいのある子の子育てと支援

全国LD親の会 埼玉親の会「麦」事務局 矢崎弘美

埼玉純真短期大学特任准教授

丸山アヤ子

○最初に司会より、講座の流れについて、以下のように受講者へ説明した。

（最初に、親の会「麦」の矢崎様より、「障がいのある子の子育てと支援」講座を行い、次に、受講者主体での「保護者の気持ちと保護者支援」「事例研究」グループワークを行い、最後に丸山教授より、「発達障害のある子どもと共に育つ保護者を支える」講話を行う）

1、「障がいのある子の子育てと支援」

（矢崎弘美）

（1）発達障害のある子を育てる時に生じる問題

① 特性から生じる周囲の誤解と偏見

- ・周囲からの誤解を受けやすいが、実際に発達障害の子どもがどのような認知の仕方をしているのか、具体的に例を挙げて述べられた。例：パワーポイント資料でも、蛍光ペンで線を引いた資料でも、配色によって具合が悪くなってしまう人もいる 等。
- ・不適切な環境による二次障害について述べられた。

② 立場によって異なる悩みや現状について

- ・保護者が抱える悩み（障害受容、将来への不安、孤独感等）、周囲が抱える悩み（想定外の言動への戸惑い、お付き合いの距離感）、本人が抱える悩み（怒られる理由、劣等感、居場所がない、ジレンマ、孤独感）、支援者が抱える現状（過度な支援を求められる、複合的な問題を把握する難しさ、関係者間の調整が必要になる）、についてそれぞれの立場の現状や悩みについて述べられた。また、実例を挙げながら、不安やストレスについても述べられた。

③ 疑似体験

- ・指示の意味が分からない、用紙の体裁が整っていない、威圧的に命令される、指示が複数の意味にとれる（明確に捉えられないゼスチャー）、急かされる、怒られる、という状況の中で作業することの大変さ、辛さを疑似体験した。発達障害のある子どものものの見え方や作業効率等を考えて、このような辛い状況を作らないように、作業プリントの体裁にはどのような工夫をするとういのか、どのような指示の仕方が適切だろうか、ということを受講者が体験の中から考え、意見を交換した。

④ 求められる支援とは

- ・周囲との連携（地域資源の活用等）・柔軟な対応（理想の支援方法と現実との着地点）・相互理解（自分の思いと他者の思い）について述べられた。〈例：発達障害の本人は会社で、一人で昼食をとる方が落ち着くし楽だが、他の社員は、一人でいるのがかわいそうだと思って、良かれと思って、一緒に食べるよう誘ってくる。実は本人は、それはあまり嬉しくないこともある、というそれぞれの「思い」について〉

2、「保護者の気持ちと保護者支援」「事例研究」グループワーク

6名程度の2グループを作り、各グループ内で意見交換をし、その後それぞれのグループでの内容を互いに発表し、交流した。

<方法>

①各グループ、大きな模造紙に6マス作り、縦軸・横軸に下記のような項目を立てる。②これらの項目について自分の持っている悩みや、ある事例の中から見出した解決策を考え、各自2つ程度付箋に書き込む。(悩み：ピンクの付箋 解決策：水色の付箋)

③順に自己紹介してから、自分の書いた付箋をその項目の欄に貼る。自分の持つ悩みを具体的に伝えあったり、その内容について、グループの中で意見交換をしたり、各自の出会ったエピソードや自分の事例でうまくいった解決法について話し合いに発展させる。

1. 子どもについて（悩み） （例）自信が持てない 等	（解決策） （例）決まった係活動で自信 →スモールステップ 等
2. 保護者について（悩み） （例）子の障害について旦那の祖母から理解が得られない・進学後の不安 等	
3. 支援方法（悩み） （例）漢字の書き順が覚えられない	（例）・カラーペンで一画ずつ色分けして提示し、色を言いながら書かせる。・順にこだわらない等

＜話し合いの実際＞

6名程度の2グループを作った。保護者の方が多く、保育者が1名入っているグループと、特別支援学級の教師や施設の職員の方が入っていて保護者が少数のグループができた。それぞれの悩みの内容や、支援方法、解決策の内容にも違った視点の入った話し合いがなされた。話し合い後の交流によって様々な視点が示されたり解決策が伝えられたりしたことで、より学びが増えた様子だった。

3、「発達障害のある子どもと共に育つ保護者を支える」 (丸山アヤ子)

主に、発達障害のお子さんへの「褒める」ことの届き方と、虐待で発達障害のような行動をとっているお子さんへの「褒める」ことの届き方の違いについて、最近の研究結果から得た知見について述べられた。・発達障害のお子さん→「褒める」は効果的

・虐待のお子さん→「褒める」はあまり効果的ではない。当人にあまり響かないという研究結果。

丸山准教授からは、「褒める」ことの重要性もあるが、虐待のお子さんに関しても、このような結果が出ていることも踏まえて「褒める」をどのように進化させていくか、どう伝えていくかについて考えることの必要性も述べられた。

(文責 埼玉純真短期大学 細田香織)

第7回埼玉純真短期大学研究セミナー 特別公演

合唱 ミュージカル・ライオンキング

埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園

共演：埼玉県立羽生第一高等学校

埼玉県立誠和福祉高等学校

1. 羽生ふじ高等学園の伝統「ライオンキング」

羽生ふじ高等学園では、開校以来11年間、近隣の高校生と共にライオンキングの合唱ミュージカルの公演が行われています。本公演は、羽生ふじ高等学園の生徒113名の他、羽生第一高等学校と誠和福祉高等学校の吹奏楽部・コーラス部の生徒68名の総勢181名の生徒が力を合わせて創り上げたものです。合唱の全12曲の中には、歌、楽器演奏、振り付け、ダンス、ソロ、台詞など、様々な表現が組み込まれています。また、ステージの中には、美術や家庭科の授業でつくった舞台背景や小物などが取り入れられています。生徒一人ひとりがお互いの良さを認め合い、一緒にステージを創り上げることで、「共に学び、共に生きる」喜びを肌で感じることができます。

2. ライオンキングの合唱曲とシナリオ

《第一場面》

*プロローグ（音楽部）

1.サークルオブライフ（全体）

2.朝の報告（2、3年）

3.王様になるのが待ちきれない（全体）

*お前の中に生きている（3年）

ラフィキの「シンバが生まれたぞ〜!」という歓喜の声が上がる。あらゆる動物たちがシンバの誕生を祝うために、舞台中央のプライドロックに集結する。そして、「サークルオブライフ（生命の連鎖）」の歌が観客席全体に響き渡り、いよいよミュージカルが開幕する。ザズーは王ムファサに対して、動物大国のニュースを名誉と誇りを込めてユーモラスに伝える（「朝の報告」）。その一方、ムファサの息子シンバは王様になることへの期待を胸に膨らませ、ザズーの忠告も聞かずに有頂天に舞い上げている（「王様になるのが待ちきれない」）。

《第二場面》

4.食っちまえ（2、3年）

5.準備しておけ（全体+ダンス）

6.ハクナ・マタタ（全体）

シンバは、叔父のスカーから聞いた情報を手掛かりに、禁断の場所へ迷い込んでしまう。そこには、ライオンの大国支配を快く思わないハイエナ3匹が待ち構えており、ハイエナたちはシンバを食べようと襲いかかる（「食っちまえ」）。シンバは、父ムファサの助けを得て、間一髪で命の危機を乗り

越える。スカーはハイエナと手を取り合って、王座を自分のものにしようと陰謀を企み始める（「準備しておけ」）。陰謀が現実となりムファサは命を落としてしまう。シンバは父の死の責任を感じ、心を落としてプライドロックを去ることを決心する。シンバはティンバとプンヴァと出会い、「ハクナ・マタタ（気にするな）」という呪文のような合言葉を聞いて、次第に生氣を取り戻していく。

《第三場面》

7.スカー王の狂気（3年）

8.シャドウランド（ソロ+2、3年）

9.終わりなき夜（ソロ+2、3年）

スカーはムファサとシンバを退けて王座を奪ったが、誰からも好かれることはなく、狂気に陥ってしまう（「スカー王の狂気」）。自然豊かであった大国は荒れ果て、シンバの幼なじみであるナラや他の動物たちはプライドロックから姿を消していくことになる（「シャドウランド」）。シンバはティンバやプンヴァと気楽な生活を送る一方、段々と進むべき道への自覚が芽生える（「終わりなき夜」）。

《第四場面》

10.愛を感じて（ソロ+全体）

11.お前の中に生きている（3年）

12.キングオブプライドロック

久しぶりの再会を果たしたシンバとナラは、思い出に浸るうちに、互いの愛を深め合う（「愛を感じて」）。失意の底に沈んでいたシンバであったが、心にそっと語り掛けてくる父の優しさと威厳のある言葉を励みに、故郷プライドロックへ歩みを進める（「お前の中に生きている」）。シンバはスカーとの激しい決闘を繰り広げ、見事プライドロックの王になる（「キングオブプライドロック」）。

3. ライオンキングの公演を聴いて

生徒たちが奏でる楽曲・歌声・創作ダンス・台詞は、どれも力強いメッセージと想いが込められており、観客の心を響かせてくれました。羽生ふじ・羽生第一・誠和福祉の3校の生徒たちには、学校の垣根を越えて、みんなで一緒にステージを盛り上げよう！という一体感がありました。公演中には互いに肩を組むなど、表現することの喜びをみんなで分かち合いながらミュージカルを進めていました。公演後には、お互いの頑張りや成果を認め喜び合う姿も見られました。音楽やミュージカルには、学校や一人ひとりが持つ個性の違いを越えて、人と人との心を結びつける力があるのだと実感しました。また、公演を彩る舞台衣装には、たくさんの創意工夫がありました。ステージ上には、大空を飛び交う鳥の群れや迫力あるキリンがたたずんでいます。周囲を見渡すと、糸に吊るされた小鳥が宙を旋回しています。そこはまさに、羽生ふじの「プライドロック」がありました。ミュージカル終盤には、布を使った目を見張るような素晴らしいパフォーマンスもありました。公演後には、場内からは拍手が沸き起こり、感動の嵐に包まれました。ライオンキングの公演は、心が惹き込まれるほど本当に素晴らしいものでした。

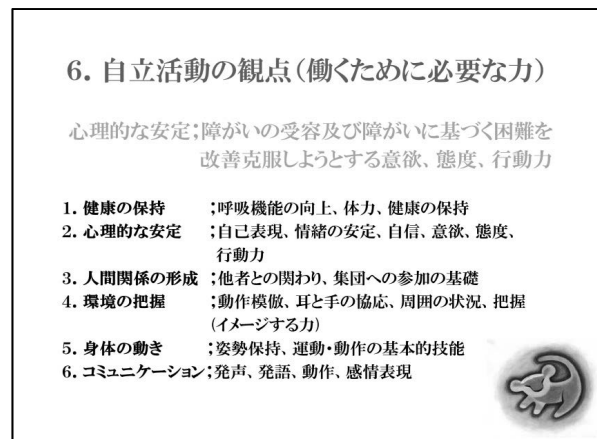
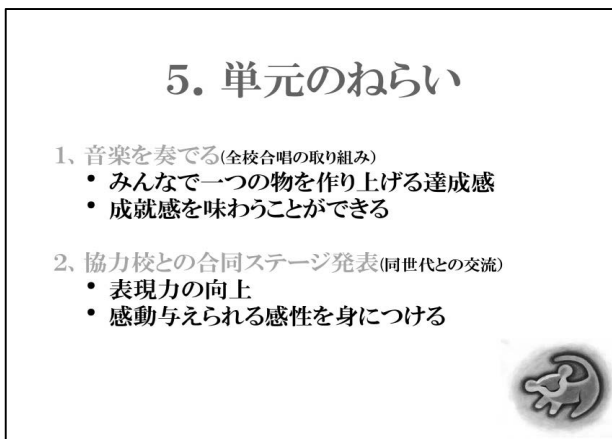
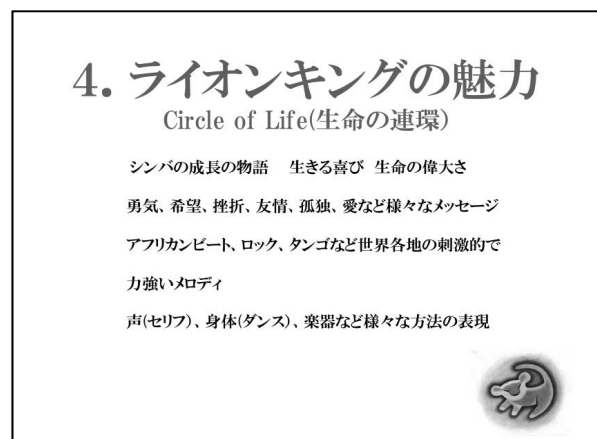
（文責 埼玉純真短期大学 金子智昭）

ライオンキングの魅力

埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園教諭

松澤ゆかり 菅原俊 加藤ゆかり

報告資料



7. ライオンキングの取り組み

全校生徒＋協力校(誠和福祉高校、羽生一高校)による歌と表現
全12曲約40分 歌、ダンス、楽器、ソロ、デュエットなど

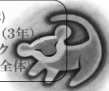
*プロローグ(音楽部)

- A 1. サークルオブライフ(全体)
2. 朝の報告(2.3年)
3. 王様になるのが待ちきれない(全体)

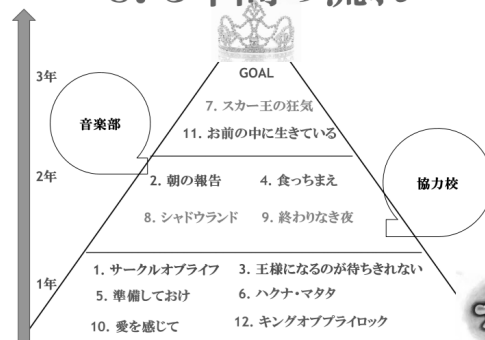
- C 7. スカー王の狂気(3年)
8. シェドウランド(ソロ+2.3年)
9. 終わりのなき夜(ソロ+2.3年)

- B 4. 食っちまえ(2.3年)
5. 準備しておけ(全体+ダンス)
6. ハクナ・マタタ(全体)

- D 10. 愛を感じて(ソロ+全体)
11. お前の中に生きている(3年)
12. キングオブブライドロック
～サークルオブライフ(全体)



8. 3年間の流れ



9. 実践



(1)生き生きと演じるための工夫

学習スタイルの確立

- ・ 自分から学ぶ(自己表現につなげる)
- ・ 余計なものは取っ払う
- ・ 見て聞いて動いて体験

そのためのサポートツール

- ・ 歌詞表、早覚えカード、進行表
- ・ CD、ダンス指示書、楽器練習図etc



(2)どの子も成長するための支援

- ・ 個性を生かした配役
- ・ 主体的に動くための支援
- ・ 生徒の心を動かす楽器



(3)自信を持ってやり抜くための取組



①集中力を高める♪サークルオブライフ♪



集中力、意欲、態度、行動力 姿勢保持、呼吸機能の向上



②心を開放する

♪朝の報告・王様になるのが待ちきれない・ハクナマタタ♪



他者との関わり、集団への参加の基礎を築く



③心の安定を図る

♪シャドウランド・終わりのなき夜・愛を感じて・お前の中に生きている♪



感情表現、情緒の安定



④表現方法を学ぶ

♪朝の報告、王様になるのが待ちきれない、食っちゃまえ、ハクナマタタ♪



発声、発語、自己表現、自信、意欲



⑤身体の動きを学ぶ

♪準備しておけ♪



動作模倣、運動動作の基本技能、ボディイメージの広がり



⑥自信をつける

♪スカー王の狂気・シャドウランド・終わりのなき夜・愛を感じて♪



自信、意欲、態度、行動力



⑦人と合わせる

♪愛を感じて・お前の中に生きている♪



運動・動作の基本的技能



⑧困難を克服する

♪キングオブプライドロック♪



障がいの受容及び障がいに基づく困難を改善
克服しようとする意欲、態度、行動力



10.成果

- ダイヤの原石をダイヤモンドに！
- スペシャルな才能を生かす！
- 心と身体の健康を育む！



そして、共に生きる



♪世界に一つだけの花
一人一人違う種を持つ～♪



記録

1. 学校紹介

羽生ふじ高等学園は、平成19年に特別支援高等学校として開校されました。生徒数は1学年約40名で軽度の知的障がいのある生徒たちが入試で入ってくる学校です。ほとんどの学生は、一般就労を目指しております。3年後には就職するということで、週30時間の授業のうち15時間が専門教科に充てられています。農業コース・園芸コース・フードデザインコース・メンテナンスコースの4つのコースに分かれています。色々な行事もありますが、3年間の中で企業就労するために、1年生は1回の実習、2年生は2回の実習、3年生は企業に就職が決まるまで実習が行われています。

(松澤先生)

2. 本校の音楽教育

本学の音楽の時間は、30分の1です。どの学年の生徒も、1週間当たり1時間の授業です。音楽教育の目的は、自分で表現することで喜びを得て、心も身体も健康になる（充実する）ことです。とにかく表現することが苦手な子どもたちで、人前で話したり自分の気持ちを伝えたりするのが苦手な子どもたちが育っていますので。1学期は器楽をやっています。1年生はキーボード、2年生はギター、3年生はドラムとアンサンブルです。バンドができるので生徒のモチベーションが上がるんです。2学期は、ライオンキングのステージを目標に、多くの人たちに見てもらうことを目標にしています。3学期は、創作ダンスです。クラスごとに作ったダンスを披露することで、身体で表現できることを目標にしています。

(松澤先生)

3. ライオンキングとの出会い

私が若かりし頃、校内暴力が多発する大荒れの学校に勤めていました。その学校の校長から、「毎週、音楽朝会をやってくれ！とにかく歌が歌えれば、学校が落ち着くから頑張ってくれ！」という言葉を受け、色々な曲を取り入れながら音楽朝会を5年間やってきました。すると、本当に歌うようになるんですね。生徒指導というより、ただ歌をやっていました。1クラスではなく全校生徒が歌うことで、生徒が一つの気持ちになり、学校が平和になってきました。次の赴任先の中学校でも、やはりその時の思い出があったので、全生徒で合唱をやりました。その次に赴任した養護学校でも、小・中・高等学校の児童生徒全員で、合唱や音楽発表をやりました。ある時、臨時任用の音楽の先生が打楽器奏者であり、先生がジャンベというアフリカ楽器を叩いたときに、車椅子の子どもたちの身体が起き上がってきたことがありました。そこで、ジャンベを生かせる曲をやりたいと思ったのです。1曲目は「We Are The World」をやりましたが、他に何かないか探していた時、体育教員の夫が「ライオンキングが良いんじゃない」とアドバイスをもらいました。ライオンキングは、ジャンベにピッタリだと思いました。養護学校でやっているうちに、「もっともっとやりたい！」とい思いが強くなり、ふじ高等学園が開校するという情報を聞いて赴任を決めました。

(松澤先生)

4. ライオンキングの魅力

ライオンキングの魅力は、本校のパワフルな生徒にピッタリなところ。また、アフリカの舞台をテーマにした壮大な物語であることも魅力の一つです。それから、生徒の気持ちに通じるような様々なメッセージ（希望、挫折、友情、孤独、愛など）が込められており、アフリカンビートなど世界各地の刺激的な音楽に溢れています。劇団四季でミュージカル化されたとおり、台詞や振り付けなど様々な要素が入ってくるので、生徒一人ひとりの個性に合わせることもできます。

（松澤先生）

5. 単元のねらい

単元のねらいは、とにかく10年間続けてきた全校合唱を成功させることです。そして一番の目玉は、協力校と一緒に公演するということです。生徒たちは、ここで頑張っても、社会へ出て認めてもらえなければならないのです。井の中の蛙ではダメなんですよ。ですから、一緒にやることが何よりのねらいになります。協力校の生徒たちに、「わあ、すごいね!」と言ってもらえるぐらい、強い意気込みで取り組んでいます。

（松澤先生）

6. 自立活動の観点

ライオンキングの12曲の中には、自立活動の様々な観点が含まれています。例えば、①健康の保持は、「呼吸機能の向上、体力、健康の保持」、②心理的な安定は、「自己表現、情緒の安定、自信、意欲、態度、行動力」、③人間関係の形成は、「他者との関わり、集団への参加の基礎」、④環境の把握は、「動作模倣、耳と手の協応、周囲の状況、把握（イメージする力）」、⑤身体の動きは、「姿勢保持、運動・動作の基本的技能」、⑥コミュニケーションは、「発生、発語、動作、感情表現」です。

（松澤先生）

7. ライオンキングの取り組み

全12曲40分の中で、全体で歌う曲と学年単位で歌う曲があります。生徒の個性に応じて、歌、ダンス、楽器、ソロ、デュエットなどの配役を決めています。

（松澤先生）

8. 3年間の流れ

3年間を通して、1年生で6曲（サークルオブライフ、王様になるのが待ちきれない、準備しておけ、ハクナ・マタタ、愛を感じて、キングオブプライドロック）、2年生で4曲（朝の報告、食っちゃえ、シャドウランド、終わりのなき夜）、3年生で2曲（スカー王の狂気、お前の中に生きている）を練習します。学年が上がるにつれて実習が増えるため、学校に居る生徒が段々と少なくなります。そのため、1年生のうちに歌をしっかりと学んで欲しいと思っています。3年生は、歌の代わりに表現をたくさん取り入れています。

（松澤先生）

9. 実践

(1) 生き生きと演じるための工夫

ライオンキングの練習を開始してから本番を迎えるまでの間に、どのような練習をしているのかを短いムービーにまとめました。スクリーンをご覧になりながら、解説をさせて頂きたいと思います。パート練習は模範CDを聞きながら自分たちの力で歌詞を覚えていきます。CDの操作も生徒たちで行います。パートリーダーを中心に練習を進め、歌詞を覚えきることができたら教員にチェックをしてもらっています。自分でやってみるということを大切にしています。また、早覚えカードを使用して、生徒自身が視覚的に歌詞を覚えられるように工夫しています。3年生のダンス練習は、歌と同様にCDを聞きながら練習を進めていきます。ダンスの動きはマニュアルがあり、マニュアルの資料を読み取って、実際に身体を動かしながら覚えていきます。教員がダンスをチェックして、細かい修正点をアドバイスします。サポートツールについて、授業前に必ずホワイトボードで授業内容や目標などを確認しています。オリジナル教材であるCDとCDデッキをパートごとに置いて、生徒たちが自分で操作しながら練習できるようにしています。ティンパニーの楽譜には、ティンパニーの種類や色を付けることで叩くタイミングが分かるようにしています。全体練習では、タイミングがズレないようにどの生徒も指揮者に注目しています。布のパフォーマンスの練習は、全員の息が合わない最後のシーンが決まらないため、一生懸命に練習しています。先輩が後輩を指導する場面もたびたびあります。協力校の練習をご覧ください。羽生第一高校の皆さんの練習風景です。本校の生徒と同じCDを使っています。こちら誠和福祉高校の皆さんの練習風景です。夏休みを中心に、外部講師の先生をお呼びして、楽器や歌のレッスンをして頂いています。動画に記録して、繰り返し自分で映像を見ながら練習できるように工夫しています。ご縁があり、劇団四季でライオンキングを演じられていた方から、歌のレッスンを受ける機会もありました。生徒たちはアドバイスを素直に受け止め、レッスン終了後の生徒たちの変化にはわれわれ音楽科教員も驚きました。全校練習の様子です。こちらは、校内で最大規模の練習になります。今年のマエストロの加藤先生から、練習前に想いを聞いている生徒たちの様子です。このように、たくさんの方の支えがあって「劇団四季ふじライオンキング」が創り上げられています。

(菅原先生)

(2) どの子も成長するための支援

私はまだ3年目のライオンキングなんですけど、生徒と共に達成感を感じられることが大きかったです。生徒一人ひとりが表現することで達成感が大きくなり、それが自信に繋がっていきます。ライオンキングには、歌・台詞・身体表現の3つの配役があります。生徒たちが得意分野を生かせるように、個性を生かした配役に重点を置いています。文化祭の前には、一人ひとりの生徒が自分の配役を気にして、音楽科の教員たちに声をかけてくるようになります。また、生徒が主体的に動くための支援として、1年生ではまず恥ずかしいという気持ちを払しょくすることから始めます。本番と同じ位置にマイクを置き、本番さながらの練習をすることで、少しずつ自信を持たせたりもします。言葉の力も大きく、松澤先生の「私の自慢の生徒たちなんだよ！お前たちは！だからね、みんなに見せたいんだよ！」という魔法の言葉で生徒たちを引っ張ることもあります。生徒の心を動かす楽器について

、シーンや個々の生徒の実態に応じた様々な楽器を使うようにしています。

(加藤先生)

(3) 自信を持ってやり抜くための取り組み

①集中力を高める

生徒たちが仕事をしていくうえで、集中力を養うことは大切です。「サークルオブライフ」の「ナ〜」という発生は、息をたくさん吸って吐くため、気持ちを落ち着かせるのにとっても効果的です。また、ハモリを取り除き複雑さを無くすことで、生徒がメロディーを外してしまうのではないかという発声のストレスを軽減するように工夫しています。

②心を開放する

身体が動くときも動くようになると思います。私の名言です。「朝の報告」「王様になるのが待ちきれない」「ハクナマタタ」の合唱では、身体を動かして歌うことで、生徒たちを直立不動で歌わせない工夫をしています。

③心の安定を図る

「シャドウランド」「終わりなき夜」「愛を感じて」「お前の中に生きている」のメロディーや歌詞は、クールダウンが必要な生徒たちの心にストンと落ちます。

④表現方法を学ぶ

「朝の報告」の発声や発語には、早口言葉が入っておりとても面白いです。また、1人の世界に居たいという子どもや人への好き嫌いが激しい子どもが多いなかで、肩を組むというのはハードルが高いのですが、心を開放して表現するためにとっても大切な表現方法です。さらに、手話も取り入れることで、生徒の動きたいという気持ちが自然に出るようにしています。

⑤身体の動きを学ぶ

関節をあまり感じられない子どもたちが多いです。手と足の動きが違うような複雑な動作が苦手な生徒が多いので、あえて身体の動きを取り入れています。

⑥自信をつける

生徒の個性に応じて、配役を与えるようにしています。例えば、歌が苦手な生徒でも、「シンバが生まれたぞ!」「なんの肉?」などセリフを一言だけでも任せられることで、自信が持てるようになります。また、声が小さい生徒でもマイクを使うことで、歌うことが心地良いと思ってもらえるように工夫しています。

⑦人と合わせる

布を使ったダイナミックなパフォーマンスは難しいのですが、体育の教員に教わりながら実践しま

した。練習を通して、人と合わせることの大切さを感じられると思います。

⑧困難を克服する

ライオンキングの全12曲を歌い上げることは、とても大変だと思います。ただ今までに、発話に問題があった生徒が、「この役をやりたいんだ！」という強い気持ちから、大勢の前で見事に歌うことができた感動的な瞬間を目の当たりにしたこともあります。

(松澤先生)

10. 成果

入学してきた生徒は、色々な授業を通して、ダイヤモンドのような輝きを放つことがあります。その子のスペシャルな才能を生かすことが大切です。高校生と同じハーモニーを重視する教育ではなく、生徒たちが好きに歌えて表現できる曲をたくさん歌うことで、特別な才能を発掘して生かせるようにしています。また、生徒の心と身体の健康を育むことで、卒業後に仕事や職場で悩んだ時、立ち直ることができるようになると思います。そして最後に、私が大事にしていることは、「共生の社会」です。一人ひとり良い才能もっているから、たくさんの人に伝えたいと思います。けれども、子どもたちがサボっていたら、それが伝わらないのです。笑顔が一番、歌が一番、ライオンキングが一番、何でも良いので自分が自慢できる所を色々な人に伝えて欲しいです。そういう場を、私たちが設定する必要があるかなと思います。障がいがあることは、本人にとって一番辛いことだと思います。ただ、障がいがあるなしに関係なく、やはり一人の人間として生きていけるように、これからもダイヤモンドの原石をダイヤモンドに磨いていきます。本日はご清聴ありがとうございました。

(松澤先生)

(文責 埼玉純真短期大学 金子智昭)

アンケート報告

第7回研究セミナー参加者

1. 参加者 計	268名
来賓・指導助言者・提案者	17名
一般参加者	101名
・第1講座	12名
・第2講座	17名
・第3講座	34名
・第4講座	9名
・午後のみ	29名
羽生ふじ高等学園関係者	80名
大学関係者	18名
学生	52名（2年ボランティア22名を含む）

平成29年度第7回埼玉純真短期大学研究セミナーアンケートの結果

1. アンケート回収率 20%（20名／101名）
2. 男女別アンケート回答者（一般） 男 1名 女 19名
3. 年齢別参加者
 - ① 10歳代～20歳代 2名
 - ② 30歳代～40歳代 7名
 - ③ 50歳代 9名
 - ④ 60歳以上 1名
 - ⑤ 無回答 1名
4. 所属・役職等
 - ① 一般 3名
 - ② 保育園 0名
 - ③ 幼稚園・こども園 2名
 - ④ 小学校 4名
 - ⑤ 中学校 4名
 - ⑥ 高等学校 1名
 - ⑦ 特別支援学校 2名
 - ⑧ 関係機関 0名
 - ⑨ その他 5名

（その他：幼稚園児保護者、支援学級介助員など）

（役職：特別支援学級介助員、学習支援員、通級指導教室など）

5. セミナーの情報入手

- | | | | |
|------------|-----|--------------|----|
| ① 学校（園、教委） | 11名 | ② 地域の会館等のチラシ | 0名 |
| ③ 地域の研究会 | 1名 | ④ 友人や友達から | 3名 |
| ⑤ 大学から | 2名 | ⑥ その他 | 3名 |
- （その他： 埼特研音楽部会から、孫から、埼玉純真短期大学のホームページから）

6. 参加しての感想をおきかせください

（1） 公演について

- | | | | |
|-------------------|-----|-------------|----|
| ① とても良かった | 16名 | ② 良かった | 2名 |
| ③ まあまあだった | 0名 | ④ 少し物足りなかった | 0名 |
| ⑤ 期待したものになっていなかった | 0名 | ⑥ 無回答 | 2名 |

（2） 実践報告について

- | | | | |
|-------------------|-----|-------------|----|
| ① とても良かった | 18名 | ② 良かった | 1名 |
| ③ まあまあだった | 0名 | ④ 少し物足りなかった | 0名 |
| ⑤ 期待したものになっていなかった | 0名 | ⑥ 無回答 | 1名 |

（3） 講座について

- | | | | |
|-------------------|-----|-------------|----|
| ① とても良かった | 14名 | ② 良かった | 3名 |
| ③ まあまあだった | 0名 | ④ 少し物足りなかった | 0名 |
| ⑤ 期待したものになっていなかった | 0名 | ⑥ 無回答 | 3名 |

（5） セミナーの運営について

- | | | | |
|-----------|-----|---------------|----|
| ① とても良かった | 12名 | ② 良かった | 6名 |
| ③ まあまあだった | 0名 | ④ 少し改善したほうがよい | 0名 |
| ⑤ 改善を希望する | 0名 | ⑥ 無回答 | 2名 |

（6） 参加しての感想、次回の企画、要望、気づいたこと等について

○ 公演について

- ・ 素晴らしい公演をありがとうございました。たくさんの生徒さんが先生と一緒に、一つのものを作り上げ、発表する姿が素敵でした。作り上げていく過程も見てみたい気持ちになりました。様々な楽器が使われていて、おもしろかったです。
- ・ 長い期間練習し、頑張ってきた姿がうかがえました。素晴らしかったです。
- ・ 支援学校と通常の高校と福祉高校の協力によって公演することに、意義があると思います。

実際の公演の中で、皆が生き生きと自信を持って活動していたように見えました。上手に歌う、演じるより、ひとりひとりが1つのストーリーを作っているという自覚。地域の学生と自然な協力。目指す支援教育を見たような思いでした。NHKで取り上げてほしいと思いました。

- ・ 公演後の子供達のやりきったという表情がとてもよかった。
- ・ 感動！感動！感動！
- ・ ずっと見たいと思いました。輝く姿、すばらしかったです。
- ・ ふじの生徒がどこにいるのかわからないぐらい、全体が一つになった公演でした。
- ・ 感動です。ありがとうございました。
- ・ 感動しました。心温まるものでした。涙がこぼれました。
- ・ 子ども達がみな生き生きしていて、本当にすばらしかったです。感動しました。
- ・ 若い歌声を久し振りに聞いた。
- ・ インクルーシブ教育の集大成ともいうべき姿を見ることができた。
- ・ 初めてみせていただき、感動しました。
- ・ 卒業生の活躍を見れてうれしかったです。
- ・ 生徒達の活動に感動しました。

○ 実践報告について

- ・ ほとんどの生徒が就労を目指す中で、働き続けられる身体を目的としているところで、ライオンキングはそのための重要な要素がたっぷりと含まれていると思いました。また、先生方の生徒への寄り添い方に感動しました。尊敬します。
- ・ 日々の取組みの苦労があったと思いますが、先生方のかかわり方、言葉のかけ方、いろいろと学びが多くありました。自分の職場においても、活かしていきたいと思いました。もっともっとお話を伺ってみたいです。
- ・ 「少数派が上に行く」意気込みよくわかります。全校で1つのものを作り上げることに意味があるんですね。この学校を卒業したことに自信を持つことでしょう。
- ・ 様々な実践教育の内容がわかりました。
- ・ 子供をふじに通わせたい。松澤先生の指導を受けさせたいと思いました。共生のことは常に考えていることなので、感動しました。
- ・ ダイヤモンドの原石を、私も磨きたいと思いました。
- ・ 今日までの様子がよくわかりました。
- ・ パワーポイント、ビデオでの映像もあり、大変わかりやすかったです。
- ・ 一人一人の輝き、大切にしていきます。
- ・ これからの子供の接し方を見直すことができると感じました。
- ・ 広い世界でも認めてもらえるように。その子の個性を生かして、原石を磨いて。大変勉強になりました。

- ・ 百余名の歌声の練習。大変だったと思います。
- ・ パート練習のやり方や手だても教えてもらえた。
- ・ ご指導いただいた先生に深く感謝します。

○ 講座について

- ・ グループワークを通して、ディスカッションできて充実しました。
- ・ 色々な職種の方と話し合えるのはうれしいのですが、話し合うテーマを明確にしてほしい。グループごとの発表は、なくてもいいと思う。
- ・ 保護者の質問から、様々な立場の参加者から意見を聞くことができ、有意義でした。特支にたずさわる者の研修の場として、今後も活用したいと思います。
- ・ 先生方の児童に対する熱い思いを感じました。ありがとうございました。
- ・ 自尊感情を大切にすること。伊藤先生の、親にできること、おもしろい連絡帳を書いて先生と連携をはかるなど、来年の就学にむけて参考になった。齋藤先生の行っている実践教育も具体的に教えてもらえて、とても興味深かった。
- ・ 今年度もたくさんのことを学びました。ありがとうございました。
- ・ 基本的なことを、とても分かりやすく整理された、伊藤先生の講義。もう少し長くお聞きしたかったです。
- ・ ありがとうございました。
- ・ 1人1人の子供の大切さ。いろいろなことに前向きになれました。
- ・ 支援のあり方について勉強になりました。
- ・ もう少し時間がほしかったです。

○ 全体の感想、次回の企画、要望、気づいたこと等について

- ・ ライオンキング素晴らしかったです。ありがとうございました。
 - ・ これからの特別支援教育でめざす、通常学級における特別な支援を必要とする児童（すべての児童）への支援（特別支援教育を特別なものにしない）
 - ・ 将来、小学校の教員を目指しております。これから、障害のあるお子さんとの向き合い方や、関わり方が重視されると感じました。その家庭と情報の共有をしっかりとしていくことが大切だということがわかりました。教員が1人1人の児童のことを細かく把握することは難しいけれど、児童との信頼関係を築く上でとても大切だと思いました。
 - ・ サポートしてくれた学生さん達の笑顔と一人一人に丁寧にあいさつして下さる様子がとても好感を持った。
- 子どもの親のサポート方法（ペアレントトレーニング）のような内容をもっと知りたい企画ができれば、また、ぜひ参加したい。
- 他にも聞きたい講座があったので、土日の2日を使ってもらってもよいのかもと思った。

- ・ 午前、午後とも充実した一日でした。ありがとうございました。
- ・ 末永くこの研究セミナーが続き、私たちの研修の場をこれからもよろしくお願いいたします。
- ・ 早く着いてしまったのにもかかわらず、温かい対応をしていただき感謝しています。
- ・ 講座もライオンキングも心を打ち、勉強になりました。また来たいです。
- ・ 学生の案内や司会。学食の利用もよかった。申し込みの締め切りが可能な限り遅いと、さらに良い。

あ　と　が　き

第7回埼玉純真短期大学研究セミナーが皆様のご協力を得まして無事成功裡に終わることができま

した。誠にありがとうございました。

今回のセミナー開催に当たりましては、埼玉県教育委員会、羽生市教育委員会、加須市教育委員会、行田市教育委員会、熊谷市教育委員会、埼玉県特別支援教育研究会の皆様にご後援を賜り、貴重なご指導をいただき、またチラシのご案内等にご協力を得ましたこと、心から感謝申し上げます。

今年は近隣市町村から244名という今までにない大勢の方の参加者を得、盛大に行われました。喜びを感じると共に本学の地域への役割の重要性を改めて感じています。

さらに、全校あげて特別公演をいただきました 埼玉県立特別支援学校羽生ふじ高等学園の皆様、ご共演の羽生第一高等学校コーラス部・吹奏楽部の皆様、誠和福祉高等学校コーラス部の皆様、さらに各講座でご指導をいただきました 発達支援教室ビリーブ代表

加藤博之 様、加須市立騎西小学校教諭 齋藤秀吉 様、全国LD親の会 埼玉親の会「麦」事務局 矢崎弘美 様より貴重なご指導を賜りましたことに重ねて御礼申し上げます。

本学の研究につきましては、日々研鑽を重ねているところですが、このセミナーを機会にさらに努力していきたいと考えています。

今後とも特別支援教育の要となって地域に引き続き貢献していきたいと考えています。

これからもご支援ご協力の程、よろしくお願いいたします。

第7回研究セミナー実行委員長 伊藤道雄

第7回（平成29年度）埼玉純真短期大学研究セミナー報告書

発行日 平成30年 2月28日

編集 埼玉純真短期大学研究セミナー実行委員会

印刷 福田印刷所

発行 埼玉純真短期大学

〒348-0045 埼玉県羽生市下岩瀬430番地

TEL 048-562-0711



埼玉純真短期大学